

歴代志略下

第一章一ダビデの子ソロモン堅くその國にたてりその神エホバこれとともに在して之を甚だ大ならしめたまひき茲にソロモン、イスラエルの一切の人々すなはち千人の長百人の長裁判人ならびにイスラエルの全地の諸の牧伯等宗家の長などに告る所あり而してソロモンおよび全會衆ともにギベオンなる崇邱に往りエホバの僕モーセが荒野にて作りたる神の集會の幕屋かしこにあればなり四されど神の契約の櫃はダビデすにキリアテヤリムよりこれが爲に備へたる處に携へ上れりダビデ曩にエルサレムにて之が爲に幕屋を張まつたりき五またホルの子ウリの子なるベザレルが作りたる銅の壇彼處においてエホバの幕屋の前にありソロモンおよび會衆これに就きて求む六即ちソロモン彼處に上りゆき集會の幕屋の中にあるエホバの前なる銅の壇に就き燔祭一千を其上に献げたり七その夜ソロモンに顯れてこれに言たまひけるは我なんぢに何を與ふべきか求めよ八ソロモン神に申しけるは汝は我父ダビデに大なる恩恵をほどこし又我をして彼に代りて王とならしめたまへり九今エホバ神よ願くは我父ダビデに宣ひし事を堅つしたまへ其は汝地の塵のごとき衆多の民の上に我を王となしたまへばなり一〇我が此民の前に出入することを得んために今我に智慧と智識とを與へたまへ斯のごとき大なる汝の民を誰か鞫きえんや二神

ソロモンに言たまひけるは此事なんぢの心により汝は富有をも財寶をも尊貴をも汝を惡む者の生命をも求めずまた壽長からんことを求めず惟智慧と智識とを己のためにもとめて我が汝を王となしたる我民を鞫かんとすれば二智慧と智識は已に汝に授かり我また汝の前の王等の未だ得たること有ざる程のとみと財寶と尊貴とを汝に與へん汝の後の者もまた是のごときを得ざるべし三斯てソロモンはギベオンの崇邱を去り集會の幕屋の前を去りてエルサレムに歸りイスラエルを治めたり四ソロモン戰車と騎兵とを集めしに戰車一千四百輛騎兵一萬二千人ありきソロモンこれを戰車の毘々に置き又エルサレムにて王の所に置り五王銀と金とを石のごとくエルサレムに多からしめまた香柏を平野の桑樹のごとく多からしめたり六ソロモンの有る馬は皆エジプトよりひききたれり王の商賈一群ひとわけて之を取りだし群ごとに價金をはらへり七エジプトより取いだして携へ上る戰車一輛は銀六百馬一匹は百五十なりき是のごとくヘテ人の諸の王等およびスリアの王等のためにもその手をもて取いだせり

第二章一茲にソロモン、エホバの名のために一の家を建てまた己の國のために一の家を建んとしソロモンすなはち荷を負べき者七萬人山において木や石を斫べき者八萬人是等を監督すべき者三千六百人を數へ出せり三ソロモンまづツロの王ヒラムに人を遣して言しめけるは汝はわが父ダビデにその住むべき家

を建る香柏をおくれり請ふ彼になせしごとく亦我にもせよ四今我わが神エホバの名のために一の家を建て之を聖別て彼に奉つり彼の前に馨しき香を焚き常に供前のパンを供へ燔祭を朝夕に献げまた安息日月朔ならびに我らの神エホバの節期などに献げんとす是はイスラエルの永く行ふべき事なればなり五我建る家は大人り其は我らの神は諸の神よりも大なればなり六然ながら天も諸人の天も彼を容ること能はざれば誰か彼のために家を建ることを得んや我は何人ぞや争か彼のために家を建ることを得ん唯彼の前に香を焚くためのみ七然ば請ふ今金銀銅鐵の細工および紫赤青の製造に精しく彫刻の術に巧なる工人一箇を我に遣り我父ダビデが備へおきたるユダとエルサレムのわが工人とともに操作しめよ八請ふ汝また香柏松木および白檀をレバノンより我におくれ我なんぢの僕等がレバノンにて木を斫ること善するを知るなり我僕また汝の僕と共に操作べし九是のごとくして我ために材木を多く備へしめよ其は我が建んとする家は高大を極むる者なるべければなり一〇我は木を斫る汝の僕に搗麥二萬石大麥二萬石酒二萬バテ油二萬バテを與ふべし一一是においてツロの王ヒラム書をソロモンにおくりて之に答へて云ふエホバその民を愛するが故に汝をもて之が王となせりと二ヒラムまた言けるは天地の造主なるイスラエルの神エホバは讚べきかな彼はダビデ王に賢子を與へて之に分別と才智とを賦け之をしてエホバのために家を建てまた己の國のために家を

建ることを得せしむ三今我わが達人ヒラムといふ才智ある工人一人を汝におくる四彼はダンの子孫たる婦の産る者にて其父はツロの人なるが金銀銅鐵木石の細工および紫布靑布細布赤布の織法に精しく又能く各種の彫刻を爲し奇巧を凝して諸の工をなすなり然ば彼を用ひてなんぢの工人および汝の父わが主ダビデの工人とともに操作しめよ五是については我主の宣まへる小麦大麦油および酒をその僕等に遣りたまへ一六汝の凡て需むることく我らレバノンより木を斫いだしこれを役にくみて海よりヨツバにおくるべければ汝これをエルサレムに運びのほりたまへと七二〇こにおいてソロモンその父ダビデが核敷しごとくイスラエルの國にをる異邦人をことごとく核敷みるに合せて十五萬三千六百ありければ一八その七萬人をもて荷を負ふ者となし八萬人をもて山にて木や石を斫る者となし三千六百人もて民を操作かしむる監督者となせり

第三章一ソロモン、エルサレムのモリア山にエホバの家を建ることを始む彼處はその父ダビデにエホバの顯はれたまひし所に即ちエブス人オルナンの中の打場の中にダビデが備へし處なり二之を建ることを始めたはその治世の四年の二月二日なり三神の家を建るためにソロモンの置たる基は是のことし長六十キユビト潤二十キユビト皆古の尺に循がふ四家の前の廊は家の潤にしたがひてその長二十キユビトまたその高は百二十キユビトその内は純金をもて蔽ふ五またその大殿は松の木をもて

張つめ美金をもて之を蔽ひその上に棕欄と鏈索の形を施し六  
 また寶石をもてその家を美しく飾るその金はパールワイムの金な  
 り七彼また金をもてその家その樑その闕その壁およびその戸を  
 蔽ひ壁の上にケルビムを刻つくハまた至聖所の家を造りしが  
 その長は家の潤にしたがひて二十キユビトその潤も二十キユビ  
 ト、美金をもてこれを蔽ふその金六百タラント九その釘の金は  
 重五十シケルまた上の室も金にて覆ふ〇また至聖所の家の  
 内に刻鑄めたる二のケルビムを造り金をこれに覆ふ一そのケ  
 ルビムの翼は長二十キユビト此ケルプの一の翼は五キユビト  
 にして家の壁に達しその他の翼も五キユビトにして彼のケルプ  
 の翼に達す二また彼ケルプの一の翼は五キユビトにして家の  
 壁に達しその他の翼も五キユビトにして此ケルプの翼と相接は  
 る三是等のケルビムの翼はその舒ひろがること二十キユビト  
 共にその足にて立ちその面を家に向く四彼また靑紫赤の布  
 および細布をもて障蔽の幕を作りケルビムをその上に繡ふ五  
 また家の前に柱二本を作るその高は三十五キユビトその頂の  
 頭は五キユビト六また環飾を造り鏈索を之に繞らしてこれを  
 柱の頂に施し石櫛一百をつくりてその鏈索の上に施す七  
 この柱を拝殿の前に立て一本を右に一本を左に置系右なる者を  
 ヤキンと名け左なる者をボアズと名く  
 第四章一ソロモンまた銅の壇を作りその長二十キユビト潤  
 二十キユビトその高十キユビト二また海を鑄造れり此邊より彼

邊まで十キユビトにしてその周囲は圓くその高は五キユビトそ  
 の周囲には三十キユビトの繩をめぐらすべし三その下には牛の  
 像ありてその周囲を繞る即ち一キユビトに十宛ありて海の周囲  
 を繞れり此牛は二行にして海を鑄る時に鑄付たるなり四その海  
 は十二の牛の上に立りその三は北にむかひ三は西にむかひ三は  
 南にむかひ三は東にむかふ海はその上にありて牛の後はみな内  
 にむかふ五その厚は手寛その邊は百合花形にして杯の邊の如く  
 に作れり是は三千バテを受容る六彼また洗盤十箇を作りて五箇  
 を右に五箇を左に置たり是はものを洗ふ所にして燔祭の品をそ  
 の中にて濯ぐ海は祭司が其身を洗ふ處なり七また金の燈臺十を  
 その例規に従ひて作り拝殿の中に五を右に五を左に置き八また  
 案十を作りて拝殿の中に五を右に五を左に据ゆ又金の鉢一百  
 を作り九彼また祭司の庭と大庭および庭の戸を作り銅をもて  
 その扉を覆ふ〇海は東のかた右の方に置いて南に向はしむ一ヒ  
 ラムまた銅と火鏟と鉢とを作りりノ斯ヒラムはソロモン王のた  
 めになせる神の家の諸の工事を終たり二即ち二の柱と毬とそ  
 の二の柱の頂の頭およびその柱の頂なる頭の二の毬を包む二の  
 網工三ならびに其ふたつの網工の上にほどこす石櫛四百この  
 石櫛は各々の網工の上に二行つつありて柱の頂なる頭の二の  
 毬を包む四また臺を作り臺の上の洗盤を作りり五また一の海  
 とその下なる十二の牛六および銅火鏟肉叉などエホバの家の  
 諸の器具を達人ヒラムソロモン王の爲に作りたり是みな磨

銅なり一七 王ヨルダンの窪地に於てスコテとゼレダタの間の  
 粘土の地にて是等を鑄させたり一八是のごとくソロモン是らの  
 諸の器皿を甚だ多く造りたればその銅の量は測られざりき一九  
 ソロモン神の家の一切の器皿を造れり即ち金の壇供前のパン  
 を載る案二〇 また定規のごとく神殿の前にて火をともすべき  
 純金の燈臺およびその燈蓋二一 その花その燈蓋その燈鉗是等  
 は金の純精なる者なり二二 また剪刀鋏匙火盤是等も純金なり又  
 家の内の戸すなはち至聖所の戸および拝殿の戸の肘鈕是も金  
 なり

第五章一 斯ソロモンがエホバの家のために爲る一切の工事は  
 是れり是においてソロモンその父ダビデが奉納たる物なる金銀お  
 よび諸の器皿を携へりて神の家の府庫の中に置り三茲にソロ  
 モン、エホバの契約の櫃をダビデの毘シオンより昇のぼらんと  
 てイスラエルの長老者と諸の支派の長等イスラエルの子孫の  
 宗家の長をエルサレムに召集めければ三イスラエルの人みな七  
 月の節筵に當りて王の所に集まり四イスラエルの長老等みな至  
 りレビ人契約の櫃を執あげ五その契約の櫃と集會の幕屋と幕屋  
 にありし諸の聖器を昇のぼれり即ち祭司レビ人これを昇のぼ  
 りぬ六時にソロモン王および彼の許に集まれるイスラエルの  
 會衆契約の櫃の前にありて羊と牛を献げたりしがその數多く  
 して書すことも數ふることも能はざりき七かくて祭司等エホバ  
 の契約の櫃をその處に昇いれたり即ち室の神殿なる至聖所の

中のケルビムの翼の下に昇いりぬハケルビムは翼を契約の櫃の  
 所の上に舒べケルビム上より契約の櫃とその杙を掩ふ九杙長か  
 りければ杙の末は神殿の前の契約の櫃より見えたり然れども外  
 には見えざりき其は今日まで彼處にあり一〇 契約の櫃の内には  
 二枚の板の外何もあらず是はイスラエルの子孫のエジプトより  
 出たる時エホバが彼らと契約を結びたまへる時にモーセがホレ  
 ブにて蔽めたる者なり一 斯て祭司等は聖所より出たり此にあ  
 りし祭司はみな身を潔めその班列によらずして職務をなせり二  
 またレビ人の謳歌者すなはちアサフ、ヘマン、エドトン及び彼  
 らの子等と兄弟等はみな細布を纏ひ鑢鉞と瑟と琴とを操て壇  
 の東に立りまた祭司百二十人彼らとともにありて喇叭を吹り三  
 喇叭を吹く者と謳歌者とは一人のごとくに聲を斉うしてエホ  
 バを讃かつ頌へたりしが彼ら喇叭鑢鉞等の樂器をもちて聲をふ  
 りたて善かなエホバその矜憫は世々限なしと云てエホバを讃  
 ける時に雲その室すなはちエホバの室に充り四祭司は雲の故  
 をもて立て奉事をなすことを得ざりきエホバの榮光神の室に  
 充たればなり

第六章一 是においてソロモン言けるはエホバは濃き雲の中に居  
 ると言たまひしが二我汝のために住むべき家永久に居べき所  
 を建たりと三而して王その面をふりむけてイスラエルの全  
 會衆を祝せり時にイスラエルの會衆は皆立をれり四 彼いひけ  
 るはイスラエルの神エホバは讃べき哉エホバはその口をもて吾

父ダビデに言ひその手をもて之を成とげたたまへり五 即ち言たまひけらく我はわが民をエジプトの地より導き出せし日より我名を置べき家を建しめんためにイスラエルの諸の支派の中より何の邑をも選みしこと無く又何人をも選みて我民イスラエルの君となせしこと無し六 只我はわが名を置くためにエルサレムを選みまた我民イスラエルを治めしむるためにダビデを選めり七 夫イスラエルの神エホバの名のために家を建ることは我父ダビデの心にありき八 然るにエホバわが父ダビデに言たまひけるは我名のために家を建ること汝の心にあり汝の心にこの事あるは善し九 然れども汝はその家を建べからず汝の腰より出る汝の子その人わが名のために家を建べしと一〇 而してエホバその言たまひし言をおこなひたまへり即ち我わが父ダビデに代りて立ちエホバの言たまひしごとくイスラエルの位に坐しイスラエルの神エホバの名のために家を建て二 その中にエホバがイスラエルの子孫になしたまひし契約を容る櫃ををさめたりとニソロモン、イスラエルの全會衆の前にてエホバの壇の前に立てその手を舒ぶ三 ソロモンさきに長五キュビト 濶五キュビト 高三キュビトの銅の臺を造りてこれを庭の眞中に据おきたりしが乃ちその上に立ちイスラエルの全會衆の前にて膝をかがめ其手を天に舒て四 言けるはイスラエルの神エホバ天にも地にも汝のごとき神なし汝は契約を保ちたまひ心を全うして汝の前に歩むところの汝の僕等に恩恵を施こしたまふ五 汝は汝の僕わが父

ダビデにのたまひし所を保ちたまへり汝は口をもて言ひ手をもて成就たまへること今日のごとし一六 イスラエルの神エホバよ然ば汝が僕わが父ダビデに語りて若し汝の子孫その道を慎みて汝がわが前に歩めることくに我律法にあゆまばイスラエルの位に坐する人わが前にて汝に缺ること無るべしと言たまひし事をダビデのために保ちたまへ七 然ばイスラエルの神エホバよ汝が僕ダビデに言たまへるなんぢの言に效驗あらしめたまへ八 但し神果して地の上に人とともに居たまふや夫天も諸天の天も汝を容るに足ず況て我が建たる此家をや九 然れども我神エホバよ僕の祈祷と懇願をかへりみて僕が今汝の前に祈るその號呼と祈祷を聽たまへ一〇 願くは汝の目を夜晝此家の上即ち汝が其名を置んと言たまへる所の上に開きたまへ願くは僕がこの處にむかひて祈らん祈祷を聽たまへ三 願くは僕と汝の民イスラエルがこの處にむかひて祈る時にその懇願を聽たまへ請ふ汝の住處なる天より聽き聽て赦したまへ三 人その隣人にむかひて罪を犯せることありてその人誓をもて誓ふことを要められんに若し來りてこの家において汝の壇の前に誓ひなば三 汝天より聽て行ひ汝の僕等を鞫き惡き者に返報をなしてその道をその首に歸し義者を義としてその義にしたがひて之を待ひたまへ二四 汝の民イスラエルなんぢに罪を犯したるがために敵の前に敗れんに若なんぢに歸りて汝の名を崇め此家にて汝の前に祈り願ひなば三 汝天より聽て汝の民イスラエルの罪を赦し汝

が彼等とその先祖に與へし地に彼等を歸らしめたまへ二六 彼らが汝に罪を犯したるがために天閉て雨なからんに彼ら若この處にむかひて祈り汝の名を崇め汝が彼らを苦しめたまふ時にその罪を離れなば三七 汝天より聽きて汝の僕等なんぢの民イスラエルの罪を赦したまへ汝既にかれらにその歩むべき善道を教へたまへり汝の民に與へて産業となさしめたまひし汝の地に雨を降したまへ二八 若くは國に饑饉あるか若くは疫病枯朽腐蝕を爲し穢穢あるか若くは其敵かれらをその國の邑に圍む等如何なる災禍如何なる疾病あるとも二九 もし一人或は汝の民イスラエルみな各々おのれの災禍と憂患を知てこの家にむかひて手を舒なば如何なる祈禱如何なる懇願をなすとも三〇 汝の住處なる天より聽て赦し各々の人にその心を知たまふごとくその道々にしたがひて報いたまへ其は汝のみ人々の心を知たまへばなり

三 汝かく彼らをして汝が彼らの先祖に與へたまへる地に居る日の間つねに汝を畏れしめ汝の道に歩ましめたまへ三 且汝の民イスラエルの者にあらずして汝の大なる名と強き手と伸たる腕とのために遠き國より來れる異邦人においてもまた若來りてこの家にむかひて祈らば三三 汝の住處なる天より聽き凡て異邦人の汝に籲もとむることく成たまへ汝かく地の諸の民をして汝の名を知らしめ汝の民イスラエルの爲ごとくに汝を畏れしめ又わが建たる此家は汝の名をもて稱らるといふことを知しめたまへ三四 汝の民その敵と戰はんとて汝の遣はしたまふ道に

進める時も汝が選びたまへるこの邑およびわが汝の名のために建たる家にむかひて汝に祈らば三五 汝天より彼らの祈禱と懇願を聽て彼らを助けたまへ三六 人は罪を犯さざる者なければ彼ら汝に罪を犯すことありて汝かれらを怒り彼らをその敵に付したまひて敵かれらを虜として遠き地または近き地に曳ゆかん時三七 彼らその虜れゆきし地において自ら心に了るところあり其俘虜の地において翻へりて汝に祈り我らは罪を犯し悖れる事を爲し惡き事を行ひたりと言ひ三八 その虜へゆかれし俘虜の地にて一心一念に汝に立歸り汝がその先祖に與へたまへる地にかひ汝が選びたまへる邑と我が汝の名のために建たる家にむかひて祈らば三九 汝の住處なる天より彼らの祈禱と懇願を聽て彼らを助け汝の民が汝にむかひて罪を犯したるを赦したまへ四〇 然ば我神よ願くは此處にて爲す祈禱に汝の目を開き耳を傾むけたまへ四一 エホバ神よ今汝および汝の力ある契約の櫃起て汝の安居の所にいらたまへエホバ神よ願くは汝の祭司等に拯救の衣を纏はせ汝の聖徒等に恩恵を喜こばせたまへ四二 エホバ神よ汝の膏そそぎし者の面を黜ぞけたまふ勿れ汝の僕ダビデの徳行を記念たまへ

第七章 ソロモン祈ることを終し時天より火くだりて燔祭と犠牲とを焚きエホバの榮光その家に充りニエホバの榮光エホバの家に充しに因て祭司はエホバの家に入ることを得ざりき三イスラエルの子孫は皆火の降れるを見またエホバの榮光のその

家いへにのぞめるを見て敷石しきいしの上うへにて地ちに俯伏ひれふして拜はいしエホバを讃ほめて云いひ善よかなエホバその恩惠めぐみは世々よよ限りなしと四斯かくて王わうおよび民たみみなエホバの前に犠牲いけにえを献ささぐ五ごソロモン王わうの献ささげたる犠牲いけにえは牛二萬せんにじふ二千羊せんじふ十二萬斯王せんにじふと民たみみな神かみの家いへを開ひらけり六む祭司さいしは立てその職つとめをなしレビ人いびとはエホバの樂器がくきを執とり立つ其樂器そのがくきはダビデ王わう彼らかれの手てによりて讚美さんびをなすに當あたり自ら作つくりてエホバの恩惠めぐみは世々よよ限りなしと頌たたへしめし者ものなり祭司さいしは彼らかれの前にありて喇叭ふえを吹ふきイスラエル人ひとは皆立みなたちをる七しちソロモンまたエホバの家いへの前まへなる庭にはの中なかを聖きよめ其處そこにて燔祭はんさいと酬恩祭しうおんさいの脂あぶらとを献ささげたり是はソロモンつくの造つくれる銅あがねの壇だんその燔祭はんさいと素祭あがらと脂あぶらとを受うけるに足たりざりしが故ゆゑなりハその時ときソロモン七日なぬかの間あひだ節筵いはいをなしけるがイスラエル全國ぜんこくの人々ひとすなはちハマテの入口いりぐちよりエジプトの河かまでの人々ひとあつまりて彼かれとともにあり其會そのくわいはなほだ大なりき九くかくて第八日やうかめに聖會せいぐわいを開ひらけり彼らかれは七日なぬかのあひだ壇奉納だんさうなの禮れいをおこなひまた七日なぬかのあひだ節筵いはいを守まもりけるが二〇七月にじふしちの二十三日にじふさんにいたりてソロモン民たみをその天幕てんまくに歸かへせり皆エホバがダビデ、ソロモンおよびその民たみイスラエルに施ほとこしたまひし恩惠めぐみのために喜よろこび且かつ心に樂たのしみて去され一いちソロモン、エホバの家いへと王わうの家いへとを造つくりてエホバの家いへと己おのれの家いへとにつきて焉なほんと心に思おもひし事を盡ことごとく成就なすとけたり三さん時にエホバ夜よソロモンに顯あはれて之これに言いひたまひけるは我われすでに汝なんぢの祈禱いのりを聽ききた此處このところをわがために選えらびて犠牲いけにえを献ささぐる家いへとなす三さん我天われてんを閉とどめて雨あめなからしめ又または

蠹賊おほねむしに命めいじて地ちの物ものを食くらはしめ又または疫疔えきびやうを我民わがたみの中なかにおくらんに一四いちじふ 我名わがなをもて稱とねらるる我民わがたみも自ら卑ひくし祈いのりりてわが面かほを求めその惡あしき道を離はなれなば我天われてんより聽きてその罪つみを赦ゆるしその地ちを醫いさん一五いちご今いまより我われこの處ところの祈禱いのりに目を啓ひらき耳みみを傾かたむけん一六いちじふ 今我いまわれすでに此家このいへを選えらびかつ聖別きよむ我名わがなは永ながく此こゝにあるべしまた我目わがめもわが心こゝろも恒とねに此こゝにあるべし一七いちじふ 汝なんぢも汝なんぢの父ちちダビデの歩あゆみしごとく我前わがまへに歩あゆみ我が汝なんぢに命めいじたるごとく凡すべて行おこなひてわが法度のりと律例おきてを守まもらば一八いちぱち 我われは汝なんぢの父ちちダビデに契約けいやくしてイスラエルを治さむる人ひと汝なんぢに缺かくこと無なかるべしと言いひしごとく汝なんぢの國くにの祚くらゐを堅かたうすべし一九いちじふ 然されど汝なんぢ若わかむるがへり我が汝なんぢの前に置おきたる法度のりと誠命いましめを棄すて往ゆて他ほかの神々かみかみに事つかへかつ之これを拜まはさば二〇にじふ 我われかれら我われが與あたへたる地ちより拔ぬきさるべし又また我名わがなのために我が聖別きよたる此家このいへは我われこれを我前わがまへより投棄なげすて萬國ばんこくの中に諺語ことわざとなり嘲笑あざわらいとならしめん二一にじふいち 且かつ又またこの家は高たかくあれども終つひにはその傍かたはらを過すくる者は皆みなこれに驚おどかして言いはんエホバ何故なにゆゑに此地このちに此家このいへに斯かなしたるやと三人さんにんこれに答こたへて言いはん彼らかれ己おのれの先祖せんぞをエジプトの地ちより導みちき出ししその神かみエホバを棄すて他ほかの神々かみかみに附從つきたがひ之これを拜まみこれに事つかへしによりてなりエホバ之これがためにこの諸もろの災禍わざはひを彼らに降くだせりと

第八章はちじゅう ソロモン二十年ねんを経てエホバの家いへと己おのれの家いへを建たてをはりけるがニヒラムまじくはく幾何いかにをソロモンに歸かへしければソロモンまた之これを建たてはしイスラエルの子孫ひとびとをしてその中うちに住すまはしむ三さんソロモン

またハマテゾバに往て之に勝り四彼また曠野のタデモルを建て  
 ハマテの諸の府庫邑を建つ五また上ベテホロンおよび下ベテホ  
 ロンを建つ是は堅固の邑にして石垣あり門あり關木あり六ソロ  
 モンまたバアラテとおのが有る府庫の邑々と戦車の諸の邑々  
 と騎兵の邑々ならびにそのエルサレム、レバノンおよび己が治  
 むるところの全地に建んと望みし者を盡く建つ七凡てイスラエ  
 ルの子孫にあらざるヘテ人アモリ人ペリジ人ヒビ人エブス人の  
 遣れる者ハその地において彼らの後に遣れるその子孫即ちイス  
 ラエルの子孫の滅ぼし盡さざりし民はソロモンこれを使役して  
 今日にいたる九然れどもイスラエルの子孫をばソロモン一人も  
 奴隸となして其工事に使ふことをせざりき彼らは軍人となり  
 軍旅の長となり戦車と騎兵の長となれり一〇ソロモン王の  
 有司の首は二百五十人ありて民を統ぶ一ソロモン、パロの女  
 をダビデの邑より携へるのぼりて曩にこれがために建おきたる家  
 にいたる彼すなはち言り我妻はイスラエルの王ダビデの家に居  
 べからずエホバの契約の櫃のいたれる處は皆聖ければなりと二  
 茲にソロモン曩に廊の前に築きおきたるエホバの壇の上にてエ  
 ホバに燔祭を献ぐることをせり三即ちモーセの命令にしたが  
 ひて毎日例のごとく之を献げ安息日月朔および年に三次の  
 節會すなはち酵いれぬパンの節と七週の節と結茅節とに之  
 を献ぐ一四ソロモンその父ダビデの定めたる所にしたがひて  
 祭司の班列を定めてその職に任じ又レビ人をその勤務に任じて

日々例のごとく祭司の前にて頌讚をなし奉事をなさしめ又門  
 を守る者をしてその班列にしたがひて諸門を守らしむ神のヒダ  
 ビデの命せしところは是の如くなりければなり一五祭司とレビ人  
 は諸の事につきまた府庫の事につきて王に命ぜられたる所に違  
 ざりき一六ソロモンはエホバの家の基を置る日までその工事  
 の準備をことごとく爲しおきて遂に之を成へたればエホバの  
 家は全備せり一七茲にソロモン、エドムの地の海邊にあるエジオ  
 ンゲベルおよびエロテに往り一八時にヒラムその僕等の手に託  
 て船を彼に遣りまた海の事を知る僕等を遣りけるが彼等すな  
 はちソロモンの僕とともにオフルに往て彼處より金四百五十  
 タラントを取てソロモン王の許に携へ來れり  
 第九章一茲にシバの女王ソロモンの風聞を聞および難問をもて  
 ソロモンを試みんとて甚だ衆多の部従をしたがへ香物と夥多  
 き金と寶石とを駱駝に負せてエルサレムに來りソロモンの許に  
 いたりてその心にある所をことごとく之に陳けるに二ソロモン  
 これが問に盡く答へたりソロモンの知ずして答へざる事は無り  
 き三シバの女王ソロモンの智慧とその建たる家を觀四またその  
 席の食物とその諸臣の列坐る状とその侍臣の伺候状と彼らの  
 衣服およびその酒人とその衣服ならびに彼がエホバの家に上り  
 ゆく昇道を觀におよびて全くその氣を奪はれたり五是において  
 彼王に言けるは我が自己の國にて汝の行爲と汝の智慧とにつき  
 て聞およびたる言は眞實なりき六然るに我は來りて目に觀るま

ではその言を信ぜざりしが今視ば汝の智慧の大なる事我が聞たるはその半分にも及ばざりき汝は我が聞たる風聞に愈れり七汝の人々は幸福なるかな汝の前に常に立て汝の智慧を聽る此なんぢの臣僕等は幸福なるかな八汝の神エホバは讃べき哉彼なんぢを悦びてその位に上らせ汝の神エホバの爲に汝を王となしたまへり汝の神イスラエルを愛して永く之を堅うせんとするが故に汝を之が王となして公平と正義を行はせたまふなりと九すなはち金百二十タラントおよび莫大の香料と寶石とを王に饋れりシバの女王がソロモン王に饋りたるが如き香料は未だ曾て有ざりしなり一〇かのオフルより金を取きたりしヒラムの臣僕とソロモンの臣僕等また白檀木と寶石とをも携さへいたりければ二王その白檀木をもてエホバの家と王の宮とに段階を作りまた謳歌者のために琴と瑟とを作り是より前には是のごとき者ユダの地に見しこと無りき三ソロモン王シバの女王に物を饋りてその携へきたれる所に報いたるが上にまた之が望にまかせて凡てその求むる者を與へたり斯て彼はその臣僕とともに去てその國に還りぬ三一年にソロモンの所に來れる金の重量は六百六十六タラントなり四この外にまた商賣および商旅の携へきたる者ありアラビアの一切の王等および國の知事等もまた金銀をソロモンに携へ至れり五ソロモン王展金の大楯二百を作れりその大楯一枚には展金六百シケルを用ふ一六また展金の小千二百を作れり其小千一枚には金三百シケ

ルを用ふ王これらをレバノン森の家に置り一七王また象牙をもて大なる寶座一つをつくり純金をもて之を蔽へり一八その寶座には六の階あり又金の足臺ありて共にその寶座に連なりその坐する處の此旁彼旁に按手ありて按手の側に二頭の獅子立をり一九その六の階に十二の獅子ありて此旁彼旁に立り是のごとき者を作れる國は未だ曾て有ざりしなり一〇ソロモン王の用ゐる飲料の器は皆金なりまたレバノン森の家の器もごとく精金なり銀はソロモンに何とも算ざりしなり二其は王の舟ヒラムの僕を乗てタルシシに往き三年毎に一回その舟タルシシより金銀象牙猿および孔雀を載て來りたればたり三ソロモン王は天下の諸王に勝りて富有と智慧とをもちたれば三天下の諸王みな神がソロモンの心に授けたまへる智慧を聽んとてソロモンの面を見んことを求め四各々その禮物を携さへ來る即ち銀の器金の器衣服甲冑香料馬騾など年々定分ありき五ソロモン戰車の馬四千厥騎兵一萬二千あり王これを戰車の毘々に置きまたエルサレムにて自己の所に置り二六彼は河よりペリシテの地とエジプトの界までの諸王を統治めたり二七王は銀を石のごとくエルサレムに多からしめまた香柏を平野の桑木のごとく多からしめたり二八また人衆エジプトなどの諸國より馬をソロモンに率いたれり二九ソロモンのその餘の始終の行爲は預言者ナタンの書とシロ人アヒヤの預言と先見者イドがネバテの子ヤラバアムにつきて述たる默言の中に記さるるにあらずや

三〇 ソロモンはエルサレムにて四十年の間イスラエルの全地を治めたり三十一 ソロモンその先祖等と共に寝りてその父ダビデの邑に葬られ其子レハベアムこれに代りて王となれり

第一〇章 爰にレハベアム、シケムに往り其はイスラエルみな彼を王となさんとてシケムに到りたればたりニネバテの子ヤラベアムはさきにソロモン王の面を避てエジプトに逃れ居しがこのことを聞てエジプトより歸れり三十一 人衆人を遣はして之を招きたるなり斯てヤラベアムとイスラエルの人みな來りてレハベアムに語りて言けるは四 汝の父我らの軛を苦しきせり然ば汝今汝の父の苦しき役とそ我らに蒙むらせたる重き軛を軽くしたまへ然れば我儕なんぢに事へん五レハベアムかれらに言けるは汝ら三日を経て再び我に來れと民すなはち去り六 是においてレハベアム王その父ソロモンの生る間これが前に立たる老人等に計りて言けるは汝ら如何に教へて此民に答へしむるや七 彼らレハベアムに語りて言けるは汝もし此民を厚く待ひ之を悦こばせ善言を之に語らば永く汝の僕たらんと八 然るに彼その老人等の教へし教を棄て自己ととも生長て己の前に立ところの少年等と計れり九 即ち彼らに言けるは汝ら如何に教へて我らをして此民に語りて汝の父の我らに蒙むらせし軛を軽くせよと言ふ民に答へしむるやと一〇 彼とともに生長たる少年等かれに語りて言けるは汝に語りて汝の父我らの軛を重くしたれば汝これを我らのために軽くせよと言たる此民に汝かく答へ斯これに言べし

吾小指は我父の腰よりも太し二 我父は汝らに重き軛を負せたりしが我は更に汝らの軛を重くせん我父は鞭をもて汝らを懲せしが我は蠍をもて汝らを懲さんと三 偕またヤラベアムと民等は皆王の告て第三日に再び我にきたれと言しごとく第三日にレハベアムに詣りしに三十一 王荒々しく彼らに答へたり即ちレハベアム王老人の教を棄て二四 少年の教のごとく彼らに告て言けるは我父は汝らの軛を重くしたりしが我は更に之を重くせん我父は鞭をもて汝らを懲せしが我は蠍をもて汝らを懲さんと三五 王かく民に聽ことをせざりき此事は神より出たる者にしてその然るはエホバかつてシロ人アヒヤによりてネバテの子ヤラベアムに告たる言を成就んがためなり一六 イスラエルの民みな王の己に聽ざるを見しかば王に答へて言けるは我らダビデの中に何の分あらんやエツサイの子の中には所有なしイスラエルよ汝ら各々その天幕に歸れダビデ族よ今おのれの家を顧みよと斯イスラエルは皆その天幕に歸れり一七 但しユダの邑々に住るイスラエルの子孫の上にはレハベアムなほ王たりき二ハレハベアム王役夫の頭なるアドラムを遣はしけるにイスラエルの子孫石をもてこれを撃て死しめたればレハベアム王急きてその車に登りてエルサレムに逃かへれり一九 是のごとくイスラエルはダビデの家に背きて今日にいたる

第一一章 茲にレハベアム、エルサレムに至りてユダとベニヤミンの家より倔強の武者十八萬を集め而してレハベアム國を

己に歸さんためにイスラエルと戦はんとせしにエホバの言神の人シマヤに臨みて云ふニソロモンの子ユダの王レハベアムおよびユダとベニヤミンにあるイスラエルの人々に告て言へし四エホバかく言ふ汝ら攻上るべからず又なんぢらの兄弟と戦ふべからず各々その家に歸れ此事は我より出たる者なりと彼ら乃はちエホバの言にしたがひヤラベアムに攻ゆくことを止て歸れり五斯てレハベアム、エルサレムに居りユダに守衛の邑々を建たり六即ちその建たる者はベテレヘム、エタム、テコアセベテズル、シヨコ、アドラムハガテ、マレシヤ、ジフルアドライム、ラキシ、アゼカニソラ、アヤロン、ヘブロン等はユダとベニヤミンにありて守衛の邑なりニ彼その守衛の邑々を堅固にし之に軍長を置き糧食と油と酒とを貯はへニまたその一切の邑に附りニイスラエルの全地の祭司とレビ人は四方の境より來りてレハベアムに投す四即ちレビ人はその郊地と産業とを離れてユダとエルサレムに至れり是はヤラベアムとその子等かれらを廢して祭司の職をエホバの前に爲しめざりし故なり五ヤラベアムは崇邱と牡山羊と己が作れる槽とのために自ら祭司を立て六またイスラエルの一切の支派の中凡てその心を傾むけてイスラエルの神エホバを求むる者はその先祖の神エホバに禮物を献げんとてレビ人にしたがひてエルサレムに至れり七是のごとく彼等ユダの國を固つしソロモンの子レハベアムをし

て三年の間強からしめたり即ち民は三年の間ダビデとソロモンの道に歩めりハレハベアムはダビデの子エレモテの女マラテを妻に娶れりマハラテはエツサイの子エリアブの女アビハイルの産し者なり九彼エウシ、シヤマリヤおよびザハムの三子を産むニ〇また之が後にアブサロムの女マアカを娶れり彼アビヤ、アツタイ、ジザおよびシロミテを産むニレハベアムはアブサロムの女マアカをその一切の妻と妾とにまさりて愛せり彼は妻十八人妾六十人を取り男子二十八人女子六十人を擧ぐニレハベアム、マアカの子アビヤを王となさんと思ふが故に之を立て首となしその兄弟の長となせり三斯るが故に慧く取引ひ其男子等を盡くユダとベニヤミンの地なる守衛の邑々に散し置き之に糧食を多く與へかつ衆多の妻を求得させたり第二章レハベアムその國を固くしその身を強くするに及びてエホバの律法を棄たりイスラエルみな之に倣ふニ彼ラスエホバにむかひて罪を犯すによりてレハベアムの五年にエジプトの王シシャク、エルサレムに攻のぼれり三その戰車は一千二百騎兵は六萬また彼に従がひてエジプトより來れる民ルビ人スキ人エテオピヤ人等は數しれず四彼すなはちユダの守衛の邑々を取り進てエルサレムに至る五是においてレハベアムおよびユダの牧伯等シシャクの故によりてエルサレムに集まり居けるに預言者シマヤこれが許にいたりて之に言けるはエホバかく言たまふ汝等は我を棄たれば我も汝らをシシャクの手に遺おけりと

六是をもてイスラエルの牧伯等および王は自ら卑くしてエホバは義と語りエホバかれらが自ら卑くするを見たまひければエホバの言シマヤに臨みて言ふ彼等は自ら卑くしたれば我かれらを滅ぼさず少く拯救を彼らに施さん我シシヤクの手をもて我忿怒をエルサレムに洩さじ八然ながら彼等は之が臣とならん是彼らが我に事ふる事と國々の王等に事ふる事との辨をしらん爲なりと九エジプトの王シシヤクすなはちエルサレムに攻めりエホバの家の寶物と王の家の寶物とを奪ひて盡くこれを取り又ソロモンの作りたる金の楯を奪ひされり〇是をもてレハベアム王その代に銅の楯を作り王の家の門を守る侍衛の長等の手にこれを交し置けるがニ王エホバの家に入る時には侍衛きたりて之を負ひまた侍衛の房にこれを持かへれりニレハベアム自ら卑くしたればエホバの忿怒かれを離れこれを盡く滅ぼさんと爲たまはず又ユダにも善事ありきニレハベアム王はエルサレムにありてその力を強くし世を治めたり即ちレハベアムは四十一歳のとき位に即き十七年の間エルサレムにて世を治むすなはちエホバがその名を置んとてイスラエルの一切の支派の中より選ばたまへる邑なり彼の母はアンモ二人にしてその名をナアマといふニ四レハベアムはエホバを求むる事に心を傾けずして悪き事を行へりニ五レハベアムの始終の行爲は預言者シマヤの書および先見者イドの書の中に系圖の形に記さるるに非ずやレハベアムとヤラベアムの間には絶ず戰爭ありき

一六レハベアムその先祖等とともに寢りてダビデの邑に葬られ其子アビヤ之にかはりて王となれり  
 第一三章 ヤラベアム王の十八年にアビヤ、ユダの王となりニ  
 エルサレムにて三年の間世を治めたり其母はギベアのウリエルの女にして名をミカヤといふ茲にアビヤとヤラベアムの間に戰爭ありニアビヤは四十萬の軍勢をもて戰鬪に備ふ是みな倔強の猛き武夫なり又ヤラベアムは倔強の八十萬をもて之にむかひて戰爭の行伍を立つ是また大勇士なり四時にアビヤ、エフライムの山地なるゼマライム山の上に立て言けるはヤラベアムおよびイスラエルの人人皆聽よ五汝が知すやイスラエルの神エホバ鹽の契約をもてイスラエルの國を永くダビデとその子孫に賜へり六然るにダビデの子ソロモンの臣たるネバテの子ヤラベアム興りてその主君に叛き七邪曲なる放蕩者これに集り附き自ら強くしてソロモンの子レハベアムに敵せしがレハベアムは少くまた心弱くして之に當る力なかりき八今またなんぢらはダビデの子孫の手にあるエホバの國に敵對せんとす汝らは大軍なり又ヤラベアムが作りて汝らの神と爲たる金の犢なんぢらと偕にあり九なんぢらはアロンの子孫たるエホバの祭司とレビ人とを逐放ち國々の民の爲がごとくに祭司を立てるにあらざるや即ち誰にもあれ少き牡牛一匹牡羊七匹を携へきたりて手に充ず者は皆かの神ならぬ者の祭司となることを得るなり〇然ど我儕に於てはエホバ我儕の神にましまして我儕は之を棄すまたエホバに事ふる

祭司はアロンの子孫にして役事をなす者はレビ人なり二彼ら朝ごと夕ごとにエホバに燔祭を献げ香を焚くことを爲し又供前のパンを純精の案の上に供へまた金の燈臺とその燈蓋を整へて夕ごとに點すなり斯われらは我らの神エホバの職守を守れども汝らは却て彼を棄たり三視よ神みづから我らとともに在して我らの大將となりたまふまた其祭司等は喇叭を吹ならして汝らを攻むイスラエルの子孫よ汝らの先祖の神エホバに敵して戦ふ勿れ汝ら利あらざるべければなりと三ヤラバム伏兵を彼らの後に回らせればイスラエルはユダの前にあり伏兵は其後にあり一四ユダ後を顧みるに敵前後にありければエホバにかひて號呼り祭司等喇叭を吹り一五ユダの人々すなはち呐喊を擧げるがユダの人々呐喊を擧るにあたりて神ヤラバムとイスラエルの人々をアビヤとユダの前に打敗り給ひしかば一六イスラエルの子孫はユダの前より逃はしれり神かれ彼ら之が手に付したまひければ一七アビヤとその民彼らを夥多く擊殺せりイスラエルの殺されて倒れし者は五十萬人みな倔強の人なりき一八是時にはイスラエルの子孫打負されユダの子孫勝を得たり是は彼らその先祖の神エホバを頼みしが故なり一九アビヤすなはちヤラバムを追撃て邑數箇を彼より取れり即ちベテルとその郷里エシヤナとその郷里エフロンとその郷里是なり二〇ヤラバムはアビヤの世に再び權勢を奮ふことを得ずエホバに擊れて死り二然どアビヤは權勢を得妻十四人を娶り男子二十二

人女子十六人を擧けたり三アビヤのその餘の作爲とその行爲とその言は預言者イドの註釋に記さる  
 第一章二アビヤその先祖等とともに寢りてダビデの邑に葬られその子アサこれに代りて王となれりアサの代になりて其國十年の間平穩なりき三アサはその神エホバの目に善と視正義と視たまふ事を行へり三即ち異なる祭壇を取のぞき諸の崇邱を毀ち柱像を打碎きアシラ像を研倒し四ユダに命じてその先祖等の神エホバを求めしめその律法と誠命を行はしめ五ユダの一切の邑々より崇邱と日の像とを取除けり而して國は彼の前に平穩なりき六彼また守衛の邑數箇をユダに建たり是はその國平安を得て此年頃戰爭なかりしに因る即ちエホバ彼に安息を賜ひしなり七彼すなはちユダに言けるは我儕是等の邑を建てその四周に石垣を築き戎樓を起し門と門門とを設けん我儕の神エホバを我儕求めしに因て此國なほ我儕の前にあり我ら彼を求めたれば四方において我らに平安を賜へりと斯彼ら阻滯なく之を建たり八アサの軍勢はユダより出たる者三十萬ありて楯と戈とを執りベニヤミンより出たる者二十八萬ありて小楯を執り弓を彎く是みな大勇士なり九茲にエテオピア人セラ軍勢百萬人戰車三百輛を率ゐて攻きたりマレシヤに至りければ一〇アサこれにむかひて進み出で共にマレシヤのゼパタの谷において戰爭の陣列を立つ二時にアサその神エホバにむかひて呼はりて言ふエホバよ力ある者を助くるも力なき者を助くるも汝にお

いては異ること無し我らの神エホバよ我らを助けたまへ我らは汝に倚頼み汝の名に託りて往て此群集に敵るエホバよ汝は我らの神にましませり人をして汝に勝せたまふ勿れとニエホバすなはちアサの前とユダの前においてエテオピア人を擊敗りたまひしかばエテオピア人逃はしりけるにニアサと之に従がふ民かれらをゲラルルまで追撃り斯エテオピア人は倒れて再び振ふことを得ざりき其は彼等エホバとその軍旅に打敗られたればなりユダの人々の得たる掠取物は甚だ多りきニ四かれらはまたゲラルの四周の邑々を盡く撃やぶれり是はその邑々エホバを畏れたればなり是において彼らその一切の邑より物を掠めたりしがその中より得たる掠取物は夥多かりきニ五また家畜のをる天幕を襲ふて羊と駱駝を多く奪ひ取り而してエルサレムに歸りぬ

第一章一茲に神の靈オデデの子アザリヤに臨みければニ彼出ゆきてアサを迎へ之に言けるはアサおよびユダとベニヤミンの人々よ我に聽け汝等がエホバと偕にをる間はエホバも汝らと偕に在すべし汝ら若かれを求めなば彼に遇ん然どかれを棄なば彼も汝らを棄たまはんニ抑イスラエルには眞の神なく教訓を施こす祭司なく律法なきこと日久しかりしが四患難の時にイスラエルの神エホバに立かへりて之を求めたれば即ちこれに遇り五當時は出る者にも入る者にも平安なく惟大なる苦患くにぐにの民に臨めり六國は國に邑は邑に擊碎かる其は神諸の患難をもて之を苦しめたまへばなり七然ば汝ら強かれよ汝らの手を弱

くする勿れ汝らの行爲には賞賜あるべければなりとハアサこれらの言および預言者オデデの預言を聽て力を得憎むべき者をユダとベニヤミンの全地より除きまた其エフライムの山地に得たる邑々より除きエホバの廊の前なるエホバの壇を再興せり九彼またユダとベニヤミンの人々およびエフライム、マナセ、シメオンより來りて寄寓る者を集めたりイスラエルの人々の中エホバ神のアサと偕に在すを見てアサに降れる者夥多しかりしなり一〇彼等すなはちアサの治世の十五年の三月にエルサレムに集りニ其たづさへ來れる掠取物の中より牛七百羊七千をその日エホバに献げニ皆契約を結びて曰く心を盡し精神を盡して先祖の神エホバを求めんニ凡てイスラエルの神エホバを求めざる者は大小男女の區別なく之を殺さんとニ四而して大聲を擧げ號呼をなし喇叭を吹き角を鳴してエホバに誓を立てニ五ユダみなその誓を喜べり即ち彼ら一心をもて誓を立て一念にエホバを求めたればエホバこれに遇ひ四方において之に安息をたまへりニ六偕またアサ王の母マアカ、アシラ像を作りしこと有ければアサこれを貶して太后たらしめずその像を斫たふして粉々に碎きキデロン川にてこれを焚りニ七但し崇邱は尚イスラエルより除かざりき然どもアサの心は一生の間全かりしなりニ八彼はまたその父の納めたる物および己が納めたる物すなはち金銀ならびに器皿等をエホバの家に携へいれりニ九アサの治世の三十五年までは再び戰爭あらざりき

第一六章一アサの治世の三十六年にイスラエルの王バアシヤ、ユダに攻めたりユダの王アサの所に誰をも往來せざらしめんとてラマを建たりニ是においてアサ、エホバの家と王の家との府庫より金銀を取りだしダマスコに住るスリアの王ベネハダデに餓りて言けるは三我父と汝の父の間の如く我と汝の間に約を立ん視よ我今汝に金銀を餓れり往て汝とイスラエルの王バアシヤとの約を破り彼をして我を離れて去しめよ四ベネハダデすなはちアサ王に聴き自己の軍勢の長等をイスラエルの邑々に攻遣ければ彼等イヨン、ダン、アベルマイムおよびナフタリの一切の府庫の邑々を撃たり五バアシヤ聞てラマを建ることを罷めその工事を廢せり六是においてアサ王ユダ全國の人を率ゐバアシヤがラマを建るに用ひたる石と材木を運びきたらしめ之をもてゲバとミズバを建たり七その頃先見者ハナニ、ユダの王アサの許にいたりて之に言けるは汝はスリアの王に倚頼みて汝の神エホバに倚頼まざりしに因てスリア王の軍勢は汝の手を脱せりハかのエテオピア人とルビ人は大軍にして戦車および騎兵はなはだ多かりしにあらざや然るも汝エホバに倚頼みたればエホバかれら汝の手に付したまへり九エホバは全世界を徧く見そなはし己にむかひて心を全うする者のために力を顯したまふこの事において汝は愚なる事をなせり故に此後は汝に戦争あるべしと一〇然るにアサその先見者を怒りて之を獄舎にいれたり其は烈しくこの事のために彼を怒りたればなりアサまた其頃

民を虐げたる事ありき一アサの始終の行爲はユダとイスラエルの列王の書に記さるニアサはその治世の三十九年に足を病みその病患つひに劇しくなりしがその病患の時にもエホバを求めずして醫師を求めたりニアサその先祖等と偕に寝りその治世の四十一年に死り一四人衆これをその己のためにダビデの邑に堀おける墓に葬り製香の術をもて製したる種々の香物を盈せる床の上に置き之がために夥多しく焚物をなせり

第一七章一アサの子ヨシヤパテ、アサに代りて王となりイスラエルにむかひて力を強くしニユダの一切の堅固なる邑々に兵を置きユダの地およびその父アサが取たるエフライムの邑々に鎮臺を置くニエホバ、ヨシヤパテとともに在せり其は彼その父ダビデの最初の道に歩みてバアル等を求めず四その父の神を求めてその誠命に歩みイスラエルの行爲に倣はざればなり五このゆゑにエホバ國を彼の手に堅く立たまへりまたユダの人衆みなヨシヤパテに禮物を餓れり彼は富と貴とを極めたり六是において彼エホバの道にその心を勵まし遂に崇邱とアシラ像とをユダより除けり七彼またその治世の三年にその牧伯ベネハイル、オパデヤ、ゼカリヤ、ネタンエルおよびミカヤを遣はしてユダの邑々にて教誨をなさしめ八またレビ人の中よりシマヤ、ネタニヤ、ゼバデヤ、アサヘル、セミラモテ、ヨナタン、アドニヤ、トビヤ、トバドニヤなどいふレビ人を遣して之と偕ならしめ且祭司エリシヤマとヨラムをも之と偕に遣はしけるが九彼らはエ

ホバの律法の書を携へユダにおいて教誨をなしユダの邑々を盡く行めぐりて民を教へたり。一〇是においてユダの周圍の地の國々みなエホバを懼れてヨシヤパテを攻ることをせざりき。一またペリシテ人の中に禮物および貢の銀をヨシヤパテに餽れる者あり且又アラビヤ人は家畜をこれに餽れり即ち牡羊七千七百牡山羊七千七百ニヨシヤパテは益々大になりゆきてユダに城および府庫邑を多く建てニユダの邑々に多くの工事を爲し大勇士たる軍人をエルサレムに置り一四彼等を數ふるにその宗家に循へば左のごとしユダより出たる千人の長の中にはアデナといふ軍長あり大勇士三十萬これに従がふ一五その次は軍長ヨハナン之に従ふ者は二十八萬人一六その次はジクリの子アマシヤ彼は悦びてその身をエホバに獻けたり大勇士二十萬これに従がふ一七ベニヤミンより出たる者の中にはエリアダといふ大勇士あり弓および楯をもつて二十萬これに従がふ一八その次はヨザパデ戰鬥の準備をなせる者十八萬これに従がふ一九是等は皆王に事ふる者等なり此外にまたユダ全國の堅固なる邑々に王の置る者あり

第一八章一ヨシヤパテは富と貴とを極めアハブと縁を結べり二かれ數年の後サマリアに下りてアハブを訪ければアハブ彼およびその部従のために牛羊を多く宰りギレアデのラモテに俱に攻らんことを彼に勸む三すなはちイスラエルの王アハブ、ユダの王ヨシヤパテに言けるは汝我とともにギレアデのラモテ

に攻めくやヨシヤパテこれに答へけるは我は汝のごとく我民は汝の民のごとし汝とともに戰鬥に臨まんと四ヨシヤパテまたイスラエルの王に言けるは請ふ今日エホバの言を問たまへと五是においてイスラエルの王預言者四百人を集めて之に言けるは我らギレアデのラモテに往て戦ふべきや又は罷べきや彼等いひけるは攻上りたまへ神これを王の手に付したまふべしと六ヨシヤパテいひけるは此外に我らの由て問べきエホバの預言者此にあらざるや七イスラエルの王こたへてヨシヤパテに言けるは外になほ一人あり我ら之によりてエホバに問ことを得ん然ど彼は今まで我につきて善事を預言せず恒に惡き事のみを預言すれば我彼を惡むなり其者は即ちイムラの子ミカヤなりと然るにヨシヤパテこたへて王しか言ふ勿れと言ければハイスラエルの王一人の官吏を呼てイムラの子ミカヤを急ぎ來らしめよと語り九イスラエルの王およびユダの王ヨシヤパテは朝衣を纏ひサマリヤの門の入口の廣場にて各々その位に坐し居り預言者は皆その前に預言せり一〇時にケナアナの子ゼデキヤ鐵の角を造りて言けるはエホバかく言たまふ汝是等をもてスリア人を衝て滅ぼし盡すべしと二預言者みな斯預言して云ふギレアデのラモテに攻上りて勝利を得たまへエホバこれを王の手に付したまふべしと三茲にミカヤを召んとて往たる使者これに語りて言けるは預言者等の言は一の口より出るがごとくにして王に善し請ふ汝の言をも彼らの一人のごとくにして善事を言へ三ミカヤ言

けるはエホバは活く我神の宣ふ所を我は陳べんと二四かくて王に至るに王彼に言けるはミカヤよ我らギレアデのラモテに往て戦かふべきや又は罷べきや彼言けるは上りゆきて利を得たまへ彼らは汝の手に付されんと二五王かれに言けるは我幾度なんちを誓はせたらば汝エホバの名をもて唯眞實のみを我に告ぐるや六彼言けるは我イスラエルが皆牧者なき羊のごとく山に散をるを見たるがエホバは等の者は主なし各々やすらかに其家に歸るべしと言たまへり七イスラエルの王是においてヨシヤパテに言けるは我なんぢに告て彼は善事を我に預言せず只惡き事のみを預言せんと言しに非ずやと二八ミカヤまた言けるは然ば汝らエホバの言を聽べし我視しにエホバその位に坐し居たまひて天の萬軍その傍に右左に立をりしが九エホバ言たまひけるは誰かイスラエルの王アハブを誘ひて彼をしてギレアデのラモテにのほりゆきて彼處に斃れしめんかと即ち一は此ごとくせんと言ひ一は彼ごとくせんと言ければ二遂に一の靈すすみ出てエホバの前に立ち我かれを誘はんと言たればエホバ何をもてするかと之に問たまふに三我いでて虚言を言ふ靈となりてその諸の預言者の口にあらんと言りエホバ言たまひけるは汝は誘はむ且これを成就ん出て然すべしと三故に視よエホバ虚言を言ふ靈を汝のこの預言者等の口に入たまへり而してエホバ汝に災禍を降さんと定めたまふと三時にケナアナの子ゼデキヤ近よりてミカヤの頬を批て言けるはエホバの靈何の途より我を離れ

ゆきて汝と言ふや二四ミカヤ言けるは汝奥の室にいりて身を匿す日に見るべし二五イスラエルの王いひけるはミカヤを取てこれを邑の宰アモンおよび王の子ヨアシに曳かへりて言べし二六王かく言ふ我が安然に歸るまで比者を牢にいれて苦惱のパンを食せ苦惱の水を飲せよと二七ミカヤ言けるは汝もし眞に平安に歸るならばエホバ我によりて斯宣ひし事あらずと而してまた言り汝ら民よ皆聽べしと二八かくてイスラエルの王およびユダの王ヨシヤパテはギレアデのラモテに上りゆけり二九イスラエルの王時にヨシヤパテに言けるは我は服装を變て戰陣の中にいらん汝は朝衣を纏ひたまへとイスラエルの王すなはち服装を變へ二人俱に戰陣の中にいれり三〇スリアの王その戰車の長等にかねて命じおけり云く汝ら小き者とか大なる者とも戰ふなれ惟イスラエルの王とのみ戰へと三一戰車の長等ヨシヤパテを見て是はイスラエルの王ならんと言ひ身をめぐらして之と戰はんとせしがヨシヤパテ號呼ければエホバこれを助けたまへり即ち神彼らを感じて之を離れしめたまふ三二戰車の長等彼がイスラエルの王にあらざるを見しかば之を追ことをやめて引返せり三三茲に一箇の人何心なく弓を彎てイスラエルの王の胸當て草摺の間に射あてたれば彼その御者に言けるは我傷受たれば汝手を旋らして我を軍中より出せと三四此日戰事烈しくなりぬイスラエルの王は車の中に自ら扶持て立ち薄暮までスリア人をささへをりしが日の没る頃にいたりて死り

第一章 ユダの王ヨシヤパテは恙なくエルサレムに歸りてその家に至れり二時に先見者ハナニの子エヒウ、ヨシヤパテ王を出むかへて之に言けるは汝惡き者を助けエホバを惡む者を愛して可らんや之がためにエホバの前より震怒なんぢの上に臨む三然ながら善事もまた汝の身に見ゆ即ち汝はアシラ像を國中より除きかつ心を傾けて神を求むるなりと四ヨシヤパテはエルサレムに住をりしが復出てベエルシバよりエフライムの山地まで民の間を行めぐりその先祖の神エホバにこれを導き歸せり五彼またユダの一切の堅固なる邑に裁判人を立つ國中の邑々みな然り六而して裁判人に言けるは汝等その爲ところを愼め汝らは人のために裁判するに非ずエホバのために裁判するなり裁判する時にはエホバ汝らと偕にいます七然ば汝らエホバを畏れ愼みて事をなせ我らの神エホバは惡き事なく人を偏視ことなく賄賂を取こと無ればなりハヨシヤパテまたレビ人祭司およびイスラエルの族長を選びてエルサレムに置きエホバの事および訴訟を審判しむ彼らはエルサレムにかへれり九ヨシヤパテこれに命じて云く汝らエホバを畏れ眞實と誠心をもて斯おこなふべし一〇凡てその邑々に住む汝らの兄弟血を相流せる事または律法と誠命法度と條例などの事につきて汝らに訴へ出ること有はこれを諭してエホバに罪を犯さざらしめよ恐らくは震怒なんぢと汝らの兄弟にのぞまん汝ら斯おこなはば愆なかるべし一視よ祭司の長アマリヤ汝らの上にありてエホバの事を凡て司どり

ユダの家の宰イシマエルの子ゼバデア王の事を凡て司どる亦レビ人汝らの前にありて官吏とならん汝ら心を強くして事をなせエホバ善人を祐けたまふべし

第二章 この後モアブの子孫アンモンの子孫およびマオニ人等ヨシヤパテと戦はんとて攻きたれり二時に或人きたりてヨシヤパテに告て云ふ海の彼旁スリアより大衆汝に攻きたる視よ今ハザゾンタマルにありとハザゾンタマルはすなはちエンゲデなり三是においてヨシヤパテ懼れ面をエホバに向てその助を求めユダ全國に斷食を布令しめたれば四ユダ擧て集りエホバの助を求めたり即ちユダの一切の邑より人々きたりてエホバを求む五時にヨシヤパテ、エホバの室の新しい庭の前においてユダとエルサレムの會衆の中に立ち六言けるは我らの先祖の神エホバよ汝は天の神にましますに非ずや異邦人の諸國を統たまふに非ずや汝の手には能力あり權勢ありて誰もなんぢを禦ぐこと能はざるに非ずや七我らの神よ汝は此國の民を汝の民イスラエルの前より逐はらひて汝の友アブラハムの子孫に之を永く與へたまひしに非ずや八彼らは此に住み汝の名のために此に聖所を建て言へり九刑罰の劍疫病饑饉などの災禍われらに臨まん時は我らこの家の前に立て汝の前にをりその苦難の中にて汝に呼號らんしかして汝聽て助けたまはん汝の名はこの家にあればなりと一〇今アンモン、モアブおよびセイル山の子孫を視たまへ在昔イスラエル、エジプトの國より出きたれる時汝イスラエル

是等を侵さしめたまはざりしかば之を離れさりて滅ぼさざり  
 しなりニかれらが我らに報ゆる所を視たまへ彼らは汝がわれ  
 らに有たしめたまへる汝の産業より我らを逐はらはんとすニ  
 我らの神よ汝かれらを鞫きたまはざるや我らは此斯く攻よせ  
 る此の大衆に當る能力なく又焉と處を知らず唯汝を仰ぎ望む  
 のみとニユダの人々はその小者および妻子とともに皆エホバ  
 の前に立をれりニ四時に會衆の中にてエホバの靈アサフの子孫  
 たるレビ人やハジエルに臨めりやハジエルはゼカリヤの子ゼカ  
 リヤはベナヤの子ベナヤはエイエルの子エイエルはマツタニヤ  
 の子なりニ五ヤハジエルすなはち言けるはユダの人衆およびエ  
 ルサレムの居民ならびにヨシヤパテ王よ聽べしエホバかく汝ら  
 に言たまふ此大衆のために懼るる勿れ懼くなかれ汝らの戦に非  
 ずエホバの戦なればなりニ六なんぢら明日彼らの所に攻くだれ  
 彼らはチツの坡より上り來る汝らエルエルの野の前なる谷の口  
 にて之に遇んニ七この戦争には汝ら戦ふにおよはずユダおよび  
 エルサレムよ汝ら惟進みいでて立ち汝らとともに在すエホバの  
 拯救を見よ懼る勿れ懼くなかれ明日彼らの所に攻いでよエホバ  
 汝らとともに在せばなりとニ八是においてヨシヤパテ首をさげ  
 て地に俯伏りユダの人衆およびエルサレムの民もエホバの前に  
 伏てエホバを拝すニ九時にコハテの子孫およびコラの子孫たる  
 レビ人立あがり聲を高くあげてイスラエルの神エホバを讚美せ  
 りニ〇かくて皆朝はやく起てテコアの野に出ゆけり其いづるに

當りてヨシヤパテ立て言けるはユダの人衆およびエルサレムの  
 民よ我に聽け汝らの神エホバを信ぜよ然ば汝ら堅くあらんその  
 預言者を信ぜよ然ば汝ら利あらんニ彼また民と議りて人々を  
 選び之をして聖き飾を著て軍勢の前に進ましめエホバにむかひ  
 て歌をうたひ且これを讚美せしめエホバに感謝せよ其恩恵は  
 世々かぎりなしと言しむニその歌を歌ひ讚美をなし始むるに  
 當りてエホバ伏兵を設けかのユダに攻きたれるアンモン、モア  
 ブ、セイル山の子孫をなやましたまひければ彼ら打敗られたりニ  
 三即ちアンモンとモアブの子孫起てセイル山の民にむかひ盡く  
 これを殺して滅ししがセイルの民を殺し盡すに及びて彼らも亦  
 力をいだして互に滅ぼしあへりニ四ユダの人々野の觀望所に至  
 りてかの群衆を觀たりければ唯地に仆れたる死屍のみにして  
 一人だに逃れし者なかりきニ五是においてヨシヤパテおよびそ  
 の民彼らの物を奪はんとて來り觀にその死屍の間に財寶衣服お  
 よび珠玉などおびたたく在たれば則ち各々これを剥とりけ  
 るが餘に多くして携さへ去ること能はざる程なりき其物多かりし  
 に因て之を取に三日を費しけるがニ六第四日にベラカ(感謝)の  
 谷に集り其處にてエホバに感謝せり是をもてその處の名を今日  
 までベラカ(感謝)の谷と呼ぶニ七而してユダとエルサレムの  
 人々みな各々歸りきたりヨシヤパテの後にしたがひ歡びてエル  
 サレムに至れり其はエホバ彼等をしてその敵の故によりて歡喜  
 を得させたまひたればなりニ八 即ち彼ら瑟と琴および喇叭を

合奏してエルサレムに往てエホバの室にいたる二九 諸の國の民  
 エホバがイスラエルの敵を攻撃たまひしことを聞て神を畏れた  
 れば三〇ヨシヤパテの國は平穩なりき即ちその神四方において  
 之に安息を賜へり三ヨシヤパテはユダの王となり三十五歳の  
 ときその位に即き二十五年の間エルサレムにて世を治めたり  
 其母はシルヒの女にして名をアズバといふ三ヨシヤパテはそ  
 の父アサの道にあゆみて之を離れずエホバの目に善と觀たまふ  
 事を行へり三然れども崇 邱はいまだ除かず又民はいまだその  
 先祖の神に心を傾げざりき三四 ヨシヤパテのその餘の始終の  
 行爲は八ナニの子エヒウの書に記さるエヒウの事はイスラエルの  
 列王の書に載す三五 ユダの王ヨシヤパテ後にイスラエルの王  
 アハシアと相結べりアハシアは大に惡を行ふ者なりき三六 ヨシ  
 ヤパテ、タルシンに遣る舟を造らんとて彼と相結びてエジオン  
 ゲベルにて共に舟數隻を造れり三七 時にマレシヤのドダワの子  
 エリエゼル、ヨシヤパテにむかひて預言して云ふ汝アハシアと  
 相結びたればエホバなんぢの作りし者を毀ちたまふと即ちその  
 舟は皆壞れてタルシンに往くことを得ざりき  
 第二章一ヨシヤパテその先祖等とともに寢りてダビデの邑に  
 その先祖等とともに葬られその子ヨラムこれに代て王となる二  
 ヨシヤパテの子たるその兄弟はアザリヤ、エヒエル、ゼカリヤ、  
 アザリヤ、ミカエルおよびシバテヤはみなイスラエルの王ヨシ  
 ヤパテの子なり三その父彼らに金銀寶物の賜物を多く與へまた

ユダの守衛の邑々を與へけるが國はヨラムに與へたりヨラム  
 長子なりければなり四ヨラムその父の位に登りて力つよくなり  
 ければその兄弟等をことごとく劍にかけて殺し又イスラエルの  
 牧伯等數人を殺せり五ヨラムは三十二歳の時位に即エルサレ  
 ムにて八年の間世を治めたり六 彼はアハブの家のなせるごとく  
 イスラエルの王等の道にあゆみりアハブの女を妻となしたれば  
 なり斯かれエホバの目に惡と觀たまふ事をなせしかども七エホ  
 バ曩にダビデに契約をなし且彼とその子孫とに永遠に光明を與  
 へんと言たまひし故によりてダビデの家を滅ぼすことを欲み給  
 はざりきハヨラムの世にエドム人叛きてユダの手に服せず自  
 王を立たれば九ヨラム其牧伯等および一切の戰車をしたがへ  
 て涉りゆき夜の中に起いでて自己を圍めるエドム人を撃ちその  
 戰車の長等を撃り一〇エドム人は斯叛きてユダの手に服せず  
 なりて今日まで然り此時にあたりてリブナもまた叛きてユダ  
 の手に服せずなりぬ是はヨラムその先祖の神エホバを棄たるに  
 因てなり二彼またユダの山々に崇 邱を作りてエルサレムの民  
 に姦淫をおこなはせユダを惑はせり三時に預言者エリヤの書  
 ヨラムの許に達せり其言に云く汝の先祖ダビデの神エホバか  
 く言たまふ汝はその父ヨシヤパテの道にあゆまずまたユダの王  
 アサの道にあゆまずして三イスラエルの王等の道にあゆみユ  
 ダの人とエルサレムの民をしてアハブの家の姦淫をなせること  
 くに姦淫を行はしめまた汝の父の家の者にて汝に愈れるところ

の汝の兄弟等を殺せり一四故にエホバ大なる災禍をもて汝の民  
 汝の子女汝の妻等および汝の一切の所有を撃たまふべし一五  
 汝はまた臍腑の疾を得て大病になりその疾日々に重りて臍腑  
 つひに墜んと一六 即ちエホバ、ヨラムを攻させんとてエテオビ  
 アに近きところのペリシテ人とアラビヤ人の心を振起したまひ  
 ければ一七彼らユダに攻のぼりて之を侵し王の家に在るところの  
 貨財を盡く奪ひ取りまたヨウムの子等と妻等をも携へ去れり是  
 をもてその末子エホアハズの外には一人も遺れる者なかりき一  
 八此ももろの事の後エホバ彼を撃て臍腑に愈ざる疾を生ぜし  
 めたまひければ一九月日を送り二年を経るにおよびてその臍腑  
 疾のために墜ち重き病苦によりて死ねり民かれの先祖のため  
 に焚物をなせし如く彼のためには焚物をなさざりき二〇彼は三  
 十二歳の時位に即き八年の間エルサレムにて世を治めて終に  
 薨去れり之を惜む者なかりき人衆これをダビデの邑に葬れり但  
 し王等の墓にはあらず

第二章一エルサレムの民ヨラムの季子アハジアを王となして  
 之に継ぐ其は曾てアラビヤ人とともに陣營に攻きたりし  
 軍兵その長子のごとく殺したればなり是をもてユダの王  
 ヨラムの子アハジア王となれりニアハジアは四十二歳の時位に  
 即きエルサレムにて一年の間世を治めたりその母はオムリの  
 女にして名をアタリヤといふニアハジアもまたアハブの家の道  
 に歩めり其母かれを教へて惡をなさしめたるなり四 即ち彼はア

ハブの家のごとくにエホバの目の前に惡をおこなへり其父の死  
 し後彼かくアハブの家の者の教にしたがひたれば終に身を滅ぼ  
 すに至れり五アハジアまた彼らの教にしたがひイスラエルの王  
 アハブの子ヨラムとともにギレアドのラモテにゆきてスリアの  
 王ハザエルと戦ひけるにスリア人ヨラムに傷を負せたり六是に  
 おいてヨラムはそのスリアの王ハザエルと戦ふにあたりてラム  
 にて負たる傷を療さんとてエズレルに歸れりユダの王ヨラムの  
 子アザリヤはアハブの子ヨラムが病ををもてエズレルに下り  
 てこれを訪ふアハブがヨラムを訪ふて害に遇しは神の然ら  
 したるに絶たまへるなり即ちアハジアは來り居てヨラムとともに出  
 ニムシの子エヒウを迎へたりエヒウはエホバが曩にアハブの家  
 を絶去しめんとて膏を沃ぎたまひし者なりエヒウ、アハブの  
 家を罰するに方りてユダの牧伯等およびアハジアの兄弟等の  
 子等がアハジアに奉へるに遇て之を殺せり九アハジアはサマ  
 リヤに匿れたりしがエヒウこれを探求めければ人々これを執  
 へエヒウの許に曳きたりて之を殺せり但し彼は心を盡してエホ  
 バを求めたるヨシヤパテの子なればとてこれを葬れり斯りしか  
 ばアハジアの家は國を統治むる力なくなりぬ〇茲にアハジア  
 の母アタリヤその子の死たるを見て起てユダの家の王子をこと  
 ごとく滅ぼしたりしが二王の女エホシバ、アハジアの子ヨア  
 シを王の子等の殺さる者の中より竊み取り彼とその乳媪を夜  
 衣の室におきて彼をアタリヤに匿したればアタリヤかれを殺さ

ざりきエホシバはヨラム王の女アハジアの妹にして祭司エホヤダの妻なりニかくてヨアシはエホバの家に匿れて彼らともをること六年アタリヤ國に王たりき

第二章 第七年にいたりエホヤダ力を強してエロハムの子アザリヤ、ヨハナンの子イシマエル、オベデの子アザリヤ、アダヤの子マアセヤ、ジクリの子エシヤパテなどいふ百人の長等を招きて己と契約を結ばしむニ是において彼らユダを行めぐりてユダの一切の邑よりレビ人を集めまたイスラエルの族長を集めてエルサレムに歸リ三而してその會衆みな神の家において王と契約を結べり時にエホヤダかれらに言けるけるはダビデの子孫の事につきてエホバの言まひしごとく王の子位に即べきなり四然ば汝ら斯なすべし汝ら祭司およびレビ人の安息日に入きたる者は三分の一は門を守り五三分の一は王の家に居り三分の一は基礎の門に居り民はみなエホバの室の庭に居べし六祭司と奉事をするレビ人の外は何人もエホバの家に入べからず彼らは聖者なれば入ことを得るなり民はみなエホバの殿を守るべし七レビ人はおのおの手に武器を執て王を繞りて立べし家に入る者を凡て殺すべし汝らは王の出る時にも入る時にも王とともに居れとハ是においてレビ人およびユダの人衆は祭司エホヤダが凡て命じたる如くに行ひ各々その手の人の安息日に入來べき者と安息日に出ゆくべき者とを率ゑ居れり祭司エホヤダ班列の者を去せざればなり九祭司エホヤダすなはち神の家にあるダビデ

王の鎗および大楯小楯を百人の長等に交しニ一切の民をして各々武器を手て執て王の四周に立ち殿の右の端より殿の左の端におよびて壇と殿にそふて居しむニ斯て人衆王の子を携へ出し之に冠冕を戴かせ證詞をわたして王となし祭司エホヤダおよびその子等これに膏をそげり而して皆王長壽かれと言ふニ茲にアタリヤ民と近衛兵と王を讃る者との聲を聞きエホバの室に入て民の所に至りニ視に王は入口にてその柱の傍に立ち王の側に軍長と喇叭手立をり亦國の民みな喜びて喇叭を吹き謳歌者樂を奏し先だちて讚美を歌ひをりしかばアタリヤその衣を裂き叛逆なり叛逆なりと言ひ四時に祭司エホヤダ軍兵を統る百人の長等を出してこれに言ふ彼をして列の間を通りて出しめよ凡て彼に従がふ者をば劍をもて殺すべしと祭司は彼をエホバの室に殺すべからずとて斯いへるなり五是をもて之がために路をひらき王の家の馬の門の入口まで往しめて其處にて之を殺せり六斯てエホヤダ己と一切の民と王との間にわれらは皆エホバの民とならんことの契約を結べり七是において民みなバアルの室にゆきて之を毀ちその像を打碎きバアルの祭司マツタンを壇の前に殺せり八エホヤダまたエホバの室の職事を祭司レビ人の手に委ぬ昔ダビデ、レビ人を班列にわかちてエホバの室におきモーセの律法に記されたる所にしたがひて歡喜と謳歌とをもてエホバの燔祭を獻げしめたりき今このダビデの例に倣ふニ九彼またエホバの室の門々に看守者を

立せ置き身の汚れたる者には何によりて汚れたるにもあれ凡て入ことを得ざらしむ二〇斯てエホヤダ百人の長等と貴族と民の牧伯等および國の一切の民を率ゐてエホバの家より王を導きくだり上の門よりして王の家にいり王を國の位に坐せしめたり二一斯りしかば國の民みな喜びて邑は平穩なりきアタリヤは劍にて殺さる

第二章一ヨアシは七歳の時位に即きエルサレムにて四十年の間世を治めたりその母はベエルシバより出たる者にして名をヂビアといふ二ヨアシは祭司エホヤダの世にある日の間は恒にエホバの善と觀たまふことを行へり三エホヤダ彼のために二人の妻を娶れり男子女子生る四此後ヨアシ、エホバの室を修繕んと志し五祭司とレビ人を集めて之に言けるは汝ら出てユダの邑々に往き汝らの神エホバの室を歳々修繕ふべき金子をイスラエルの人衆より聚むべし其事を亟にせよと然るにレビ人これを亟にせざりき六王エホヤダ長を召てこれに言けるは汝なんぞレビ人に求めてエホバの僕モーセおよびイスラエルの會衆の古昔證詞の幕屋のために集めたるが如き税をユダとエルサレムより取きたらせざるやと七かの惡き婦アタリヤの子等神の家を壊りかつエホバの家の諸の奉納物をバアルに供へたり八是において王の命にしたがひて一箇の匱を作りエホバの室の門の外にこれを置き九ユダとエルサレムに宣布て汝ら神の僕モーセが荒野にてイスラエルに課したる如き税をエホバに携へきたれと

言けるに二〇一切の牧伯等および一切の民みな喜びて携へきたりその匱に投いれて遂に納めをはれり二レビ人その匱に金の多くあるを見てこれを王の廳に携へゆく時は王の書記と祭司の長の下役きたりてその匱を傾むけ復これを取て本の處に持ゆけり日々に斯のごとくして金を聚むること夥多し三而して王とエホヤダこれをエホバの家の工事を爲す者に付し石工および木匠を雇ひてエホバの室を修繕はせまた鐵工および銅工を雇ひてエホバの室を修復せしめけるが三工人動作てその工事を成をへ神の室を本の状に復してこれを堅固にす四その既に成るにおよびて餘れる金を王とエホヤダの前に持いたりければ其をもてエホバの室のために器皿を作れり即ち奉事の器獻祭の器および匙ならびに金銀の器を作れりエホヤダが世に在る日の間はエホバの室にて燔祭をささぐることを絶ざりき五エホヤダは年邁み日滿て死りその死る時は百三十歳なりき六人衆ダビデの邑にて王等の中間にこれを葬むる其は彼イスラエルの中において神とその殿とにむかひて善事をおこなひたればなり七エホヤダの死たる後ユダの牧伯等きたりて王を拜す是において王これに聽したがふ八彼らその先祖の神エホバの室を棄てアシラ像および偶像に事へたればその愆のために震怒ユダとエルサレムに臨めり九エホバかれらを己にひきかへさんとて預言者等を遣はし之にむかひて證をたてさせたまひしかども聽ことをせざりき三〇是において神の靈祭司エホヤダの子ゼカリヤに臨

みければ彼民の前に高く起あがりて之に言けるは神かく宣ふ汝らエホバの誡命を犯して災禍を招くは何ぞや汝らエホバを棄たればエホバも汝らを棄たまふと三 然るに人衆かれを害せんと謀り王の命によりて石をもてこれをエホバの室の庭にて撃殺せり三 斯ヨアシ王はゼカリヤの父エホヤダが己にほどこせし恩を念ずしてその子を殺せり彼死る時にエホバこれを顧みこれを問討したまへと語り三 かくてその年の終るにおよびてスリアの軍勢かれにむかひて攻のぼりユダとエルサレムにいたりて民の牧伯等をことごとく民の中より滅ぼし絶ちその掠取物を凡てダマスコの王に遣れり三四 この時スリアの軍勢は小勢にて來りけるにエホバ大軍をこれが手に付したまへり是はその先祖の神エホバを棄たるが故なり斯かれらヨアシを罰せり三五 スリア人ヨアシに大傷をおはせて遣去けるがヨアシの臣僕等祭司エホヤダの子等の血のために黨をむすびて之に叛き之をその床の上に弑して死しめたり人衆これをダビデの邑に葬れり但し王の墓には葬らざりき二六 黨をむすびて之に叛きし者はアンモンの婦シメアテの子ザバデおよびモアブの婦シムリテの子ヨザバデなりきモヨアシの子等の事ヨアシの告られし預言および神の室を修繕し事などは列王の書の註釋に記さるヨアシの子アマジヤこれに代りて王となれり

第二章一アマジヤは二十五歳の時に即きエルサレムにて二十九年の間世を治めたりその母はエルサレムの者にして名を

エホアダンといふニアマジヤはエホバの善と視たまふ事を行なひしかども心を全うしてこれをなざりき三 彼國のおのが手に堅く立つにおよびてその父王を弑せし臣僕等を殺せり四 然れどもその子女等をば殺さずしてモーセの書の律法に記せるごとく爲り即ちエホバ命じて言たまはく父はその子女の故によりて殺さるべからず子女はその父の故によりて殺さるべからず各々おのれの罪によりて殺さるべきなりと五 アマジヤ、ユダの人を集めその父祖の家にしたがひて或は千人の長に附屬せしめ或に百人の長に附屬せしむユダとベニヤミンともに然り且二十歳以上の者を數へ戈と楯とを執て戦闘に臨む倔強の士三十萬を得六 また銀百タラントをもてイスラエルより大勇士十萬を備へり七 時に神の人かれに詣りて言けるは王よイスラエルの軍勢をして汝とともに往しむる勿れエホバはイスラエル人すなはちエフライムの子孫とは偕にいまさざるなり八 汝もし往ば心を強くして戦闘を爲せ神なんぢをして敵の前に斃れしめたまはん神は助くる力ありまた倒す力あるなり九 アマジヤ神の人にいひけるは然ば已にイスラエルの軍隊に與へたる百タラントを如何にすべきや神の人答へけるはエホバは其よりも多き者を汝に賜ふことを得るなりと一〇 是においてアマジヤかのエフライムより來りて己に就る軍隊を分離してその處に歸らしめければ彼らユダにむかひて烈しく怒を發し火のごとくに怒りてその處に歸れり一 かくてアマジヤは力を強くしその民を率めて鹽の谷に往きセイル

人一萬を撃殺せりニユダの子孫またこの外に一萬人を生擄て  
 磐の頂に曳ゆき磐の頂よりこれを投おとしければ皆微塵に砕け  
 たりニ前にアマジヤが己とともに戦闘に往べからずとして歸  
 し遣たる軍卒等サマリヤよりベテホロンまでのユダの邑々を襲  
 ひ人三千を撃ころし物を多く奪ふ四アマジヤ、エドム人を戮し  
 て歸る時にセイル人の神々を携さへ來り之を安置して己の神と  
 なしその前に禮拜をなし之に香を焚りニ五是をもてエホバ、アマ  
 ジヤにむかひて怒を發し預言者をこれに遣はして言しめたまひ  
 けるは彼民の神々は己の民を汝の手より救ふことを得ざりし者  
 なるに汝なにとて之を求むるやニ六彼かく王に語れる時王これ  
 にむかひ我儕汝を王の議官となせしや止よ汝なんぞ撃殺され  
 んとするやと言ければ預言者すなはち止て言り我知る汝この事  
 を行びて吾諫を聽いれざるによりて神なんちを滅ぼさんと決  
 めたまふとニ七斯てユダの王アマジヤ相議りて人をエヒウの子  
 エホアハズの子なるイスラエルの王ヨアシに遣し來れ我儕たが  
 ひに面をあはせんと言しめければニイスラエルの王ヨアシ、ユ  
 ダの王アマジヤに言おくりけるはレバノンの荊棘かつてレバノ  
 ンの香柏に汝の女子を我子の妻に與へよと言おくりたること有  
 しにレバノンの野獸とほりてその荊棘を踏たふせりニ九汝はエ  
 ドム人を撃破れりと言ひ心にたかぶりて誇る然ば汝家に安ん  
 じ居れ何ぞ禍を惹おこして自己もユダもともに亡びんとするや  
 とニ〇然るにアマジヤ聽くことをせざりき此事は神より出たる者

にて彼らをその敵の手に付さんがためなり是は彼らエドムの  
 神々を求めしに因るニ是においてイスラエルの王ヨアシ上り  
 きたりユダのベテシメシにてユダの王アマジヤと面をあはせた  
 りしがニユダ、イスラエルに撃敗られて各々その天幕に逃かへ  
 りぬニ時にイスラエルの王ヨアシはエホアハズの子ヨアシの  
 子なるユダの王アマジヤをベテシメシに執へてエルサレムに携  
 へゆきエルサレムの石垣をエフライムの門より隅の門まで四  
 百キユビト程を毀ちニ四また神の室の中にオベデエドムが守  
 り居る一切の金銀および諸の器皿ならびに王の家の財寶を取  
 りかつ人質をとりてサマリヤに歸れりニ五ユダの王ヨアシの子  
 アマジヤはイスラエルの王エホアハズの子ヨアシの死てより後  
 なほ十五年生存らへたりニ六アマジヤのその餘の始終の行爲は  
 ユダとイスラエルの列王の書に記さるるにあらざるやニ七アマジ  
 ヤ翻へりてエホバに従がはずなりし後エルサレムにおいて黨  
 を結びて彼に敵する者ありければ彼ラキシに逃ゆきけるにその  
 人々ラキシに人をやりて彼を其處に殺さしめたりニ八人衆これ  
 を馬に負せてきたりユダの邑にてその先祖等とともにこれを葬  
 りぬ

第二六章ニ是においてユダの民みなウジヤをとりて王となして  
 その父アマジヤに代らしめたり時に年十六なりきニ彼エラテの  
 邑を建てこれを再びユダに歸せしむ是はかの王がその先祖等と  
 ともに寢りし後なりきニウジヤは十六歳の時位に即きエルサレ

ムにて五十二年の間世を治めたりその母はエルサレムの者にして名をエコリアといふ四ウジヤはその父アマジヤが凡てなしたる如くエホバの善と觀たまふ事を行ひ五神の默示に明なりしかのゼカリヤの世にある日の間心をこめてエホバを求めたりそのエホバを求むる間は神これをして幸福ならしめたまへり六彼いでてペリシテ人と戦ひガテの石垣ヤブネの石垣およびアシドドの石垣を圮しアシドドの地ならびにペリシテ人の中間に邑を建つ七神かれを助けてペリシテ人グルバアルに住むアラビヤ人およびメウ二人を攻撃しめたまへりハアンモ二人はまたウジヤに貢を納るウジヤの名つひにエジプトの入口までも廣まれば其は甚だ強くなりければなり九ウジヤ、エルサレムの隅の門谷の門および角隅に戌樓を建てこれを堅固にし一〇また荒野に戌樓を建て許多の水溜を掘り其は家畜を多く有たればなり亦平原にも平地にも家畜を有り又山々およびカルメルには農夫と葡萄を修る者を有り農事を好みたればなり二ウジヤ戰士一旅團あり書記エイエルと牧伯マアセヤの數調査によりて隊々にわかれて戰爭に出づ皆王の軍長ハナニヤの手に屬す二大勇士の族長の數は都合二六六三三その手に屬する軍勢は三十萬七千五百人みな大なる力をもて戦ひ王を助けて敵に當る四ウジヤその全軍のために楯戈兜鎧弓および投石器の石を備ふ一五彼またエルサレムにおいて工人に機械を案へ造らしめ之を戌樓および石垣に施こし之をもて矢ならびに大石を射出せり是にお

いてその名遠く廣まればなり其は非常の援助を蒙りて旺盛になりたればなり一六然るに彼旺盛なるにおよびその心に高ぶりて惡き事を行なへり即ち彼その神エホバにむかひて罪を犯しエホバの殿に入て香壇の上に香を焚んとせり七時に祭司アザリヤ、エホバの祭司たる勇者八十人を率ゐて彼の後にしたがひ入り八ウジヤ王を阻へてこれに言けるはウジヤよエホバに香を焚くことは汝のなすべき所にあらずアロンの子孫にして香を焚くために潔められたる祭司等のなすべき所なり聖所より出よ汝は罪を犯せりエホバ神なんぢに榮を加へたまはじと一九是においてウジヤ怒を發し香爐を手にとりて香を焚んとせしがその祭司にむかひて怒を發しをる間に癩病その額に起れり時に彼はエホバの室にて祭司等の前にあたりて香壇の側にをる二〇祭司の長アザリヤおよび一切の祭司等彼を見しに已にその額に癩病生じゐたれば彼を其處より速にいだせり彼もまたエホバの己を撃たまへるを見て自ら急ぎて出去り二ウジヤ王はその死る日まで癩病人となり居しがその癩病人となるにおよびては別殿に住りエホバの室より斷れたればなり其子ヨタム王の家を管理て國の民を審判り三ウジヤのその餘の始終の行爲はアモツの子預言者イザヤこれを書記したり三ウジヤその先祖等とともに寢りたれば彼は癩病人なりとて王等の墓に連接る地にこれを葬りてその先祖等とともにならしむその子ヨタムこれに代りて王となれり

第二章一ヨタムは二十五歳の時に即きエルサレムにて十六年の間世を治めたり其母はザドクの女にして名をエルシヤといふニヨタムはその父ウシヤの凡て爲たるごとくエホバの善と視たまふ事をなせり但しエホバの殿には入ざりき民は尚悪き事を爲り三彼エホバの家の上の門を建なほしオペルの石垣を多く築き増し四ユダの山地に數箇の邑を建て林の間に城および戌樓を築けり五彼アンモン二人の王と戦ひこれに勝り其年アンモンの子孫銀百タラント小麦一萬石大麥一萬石を彼におくれりアンモンの子孫は第二年にも第三年にも是のごとく彼に貢をいり六ヨタムその神エホバの前においてその行を堅うしたるに因て權能ある者となれり七ヨタムのその餘の行爲その一切の戦闘およびその行などはイスラエルとユダの列王の書に記さるハ彼は二十五歳の時に即きエルサレムにて十六年の間世を治めたり九ヨタムその先祖等とともに寝りたればダビデの邑にこれを葬れりその子アハズこれに代りて王となる

第二章一アハズは二十歳の時に即きエルサレムにて十六年の間世を治めたりしがその父ダビデと異にしてエホバの善と觀たまふ所を行はずニイスラエルの王等の道にあゆみ亦諸のバルのために像を鑄造り三ベンヒノムの谷にて香を焚きその子を火に焼きなどしてエホバがイスラエルの子孫の前より逐はらひたまひし異邦人の行ふところの憎むべき事に倣ひ四また崇邱の上丘の上一切の青木の下にて犠牲をささげ香を焚り五

是故にその神エホバかれをスリアの王の手に付したまひてスリア人つひに彼を撃破りその人々を衆く虜囚としてダマスコに曳ゆけり彼はまたイスラエルの王の手に付されたればイスラエルの王かれを撃て大にその人を殺せり六すなはちレマリヤの子ペカ、ユダにおいて一日の中に十二萬人を殺せり七その時にエフスは彼らその先祖の神エホバを棄しによるなり八その時にエフライムの勇士ジクリといふ者王の子アマセヤ宮内卿アスリカムおよび王に亞く人エルカナを殺せりハイイスラエルの子孫つひにその兄弟の中より婦人ならびに男子女子など合せて二十萬人を俘虜にしまた衆多の掠取物を爲しその掠取物をサマリアに携へゆけり九時に彼處にエホバの預言者ありその名をオデテといふ彼サマリアに歸れる軍勢の前に進みいでて之に言けるは汝らの先祖の神エホバ、ユダを怒りてこれを汝らの手に付したまひしが汝らは天に達するほどの忿怒をもて之を殺せり一〇然のみならず汝ら今ユダとエルサレムの子孫を圧つけて己の奴婢となさんと思ふ然ども汝ら自身もまた汝らの神エホバに罪を獲たる身にあらざるや二然ば今我に聴き汝らがその兄弟の中より虜へ來りし俘虜を放ち歸せエホバの烈しき忿怒なんぢらの上に臨まんとすればなりと三是においてエフライム人の長たる人々すなはちヨハナンの子アザリヤ、メシレモテの子ベレキヤ、シヤルムの子ヒゼキヤ、ハデライの子アマサ等戦爭より歸れる者等の前に立ふさがりて三之にいひけるは汝ら俘虜を此に曳い

べからず汝らは我らをしてエホバに愆を得せしめて更に我らの罪愆を増んとす我らの愆は大にして烈しき怒りイスラエルにぞまんとするなりと一四是において兵卒等その俘虜と掠取物を牧伯等と全會衆の前に遣おきければ一五上に名を擧げたる人々たちて俘虜を受取り掠取物の中より衣服を取てその裸なる者に着せ之に靴を穿せ食飲を爲しめ膏油を沃ぎ等しその弱き者をば盡く驢馬に乗せ斯して之を棕櫚の邑エリコに導きゆきてその兄弟に詣らしめ而してサマリアに歸れり一六當時アハズ王人をアツスリヤの王等に遣はして援助を乞しむ一七其はエドム人また來りてユダを攻撃ち民を虜へて去たればなり一八ベリシテ人もまた平野の邑々およびユダの南の邑々を侵してベテシメシ、アヤロン、ゲデロテおよびシヨコとその郷里テムナとその郷里ギムゾとその郷里を取て其處に住めり一九イスラエルの王アハズの故をもてエホバかくユダを卑くしたまふ其は彼ユダの中に淫逸なる事を行ひかつエホバにむかひて大に罪を犯したればなり二〇アツスリヤの王テグラテピレセルは彼の所に來りしかども彼に力をそへずして反てこれを煩はせり二一アハズ、エホバの家と王の家および牧伯等の家の物を取てアツスリヤの王に與へけれどもアハズを援ぐることをせざりき二二このアハズ王はその困難の時に當りてますますエホバに罪を犯せり二三即ち彼おのれを撃るダマスコの神々に犠牲を獻げて言ふスリアの王等の神々はその王等を助くれば我もこれに犠牲を獻げん然ば彼ら我

を助けんと然れども彼等はかへつてアハズとイスラエル全國を仆す者となれり二四アハズ神の器皿を取聚めて神の室の器皿を切やぶりエホバの室の戸を閉ぢエルサレムの隅々に凡て祭壇を造り二五ユダの一切の邑々に崇邱を造りて別神に香を焚き等してその先祖の神エホバの忿怒を惹おこせり二六アハズとその餘の始終の行爲およびその一切の行跡はユダとイスラエルの列王の書に記さる二七アハズその先祖等とともに寢りたればエルサレムの邑にこれを葬れり然どイスラエルの王等の墓にはこれを持ちかざりき其子ヒゼキヤこれに代りて王となる

第二十九章一ヒゼキヤは二十五歳の時位に即きエルサレムにて二十九年の間世を治めたりその母はゼカリヤの女にして名をアビヤといふ二ヒゼキヤはその父ダビデの凡てなしたる如くエホバの目に善と視たまふ事をなせり三即ち彼その治世の第一年一月にエホバの室の戸を開きかつ之を修繕ひ四祭司およびレビ人を携さへいりて東の廣場にこれを集め五而して之にいひけるはレビ人よ我に聽け汝等いま身を潔めて汝等の先祖の神エホバの室を潔め汚穢を聖所より除きされ六夫我らの先祖は罪を犯し我らの神エホバの目に惡しと見たまふことを行ひてエホバを棄てエホバの住所に面を背けて後をこれに向つてまた廊の戸を閉ぢ燈火を消し聖所にてイスラエルの神に香を焚す燔祭を獻けざりし八是をもてエホバの忿怒ユダとエルサレムに臨みエホバ彼等をして打ただよはされしめ詭異とならしめ胡虜とならしめた

まへり汝らが目に観るごとし九 即ち我儕の父は劍に斃れ我らの男子女子及び妻等はこれがために俘虜となれり一〇 今我イスラエルの神エホバと契約を結ばんとする意志ありその烈しき怒我らを離るることあらん二 我子等よ今は怠たる勿れエホバ汝らを選びて己の前に立ち事へしめ己に事ふる者となし香を焚く者となしたまひたればなりと三 是においてレビ人起り即ちコハテの子孫の中にはアマサイの子マハテおよびアザリヤの子ヨエル、メラリの子孫の中にはアブデの子キシおよびエハレルの子アザリヤ、ゲルシヨン人の中にはジンマの子ヨアおよびヨアの子エデンニエリザパンの子孫の中にはシムリおよびエイエル、アサフの子孫の中にはゼカリヤおよびマツタニヤ一四 へマンの子孫の中にはエヒエルおよびシメイ、エドトンの子孫の中にはシマヤおよびウジエル一五 かれらその兄弟を集へて身を潔めエホバの言に依りて王の傳へし命令にしたがひてエホバの室を潔めんとて入りたり一六 祭司等エホバの室の奥に入りてこれを潔めエホバの殿にありし汚穢をことごとくエホバの室の庭に携へいだせばレビ人それを受けて外にいだしキデロン河に持いたる一七 彼ら正月の元日に潔むることを始めてその月の八日にエホバの廊におよびまたエホバの家を潔むるに八日を費し正月の十六日にいたりて之を終れり一八 かくて彼らヒゼキヤ王の處に入りて言ふ我らエホバの室をことごとく潔めまた燔祭の壇とその一切の器具および供前のパンの案とその

一切の器皿とを潔めたり一九 またアハズ王がその治世に罪を犯して棄たりし一切の器皿をも整へてこれを潔めエホバの壇の前にこれを据置りと二〇 是においてヒゼキヤ王蚤に起いで邑の牧伯等をあつめてエホバの家にのぼり行き二 牡牛七匹牡羊七匹羔羊七匹牡山羊七匹を牽きたらしめ國と聖所とユダのためにこれを罪祭となしアロンの子孫たる祭司等に命じてこれをエホバの壇の上に献げしむ三 即ち牡牛を宰れば祭司等その血を受けて壇に灑ぎまた牡羊を宰ればその血を壇に灑ぎまた羔羊を宰ればその血を壇に灑げり三 かくて人々罪祭の牡山羊を王と會衆の前に牽きたりければ彼らその上に手を按り二四 而して祭司これを宰りその血を罪祭として壇の上に献げてイスラエル全國のために贖罪をなせり是は王イスラエル全國の爲に燔祭および罪祭を献ぐることを命じたるに因る二五 王レビ人をエホバの室に置きダビデおよび王の先見者ガデと預言者ナタンの命令にしたがひて之に鏡鈸瑟および琴を執しむ是はエホバがその預言者によりて命じたまひし所なり二六 是においてレビ人はダビデの樂器をとり祭司は喇叭をとりて立つ二七 時にヒゼキヤ燔祭を壇の上に献ぐることを命ぜり燔祭をささげ始むるときエホバの歌をうたひ喇叭を吹きイスラエルの王ダビデの樂器をならしはじめたり二八 しかして會衆みな禮拜をなし謳歌者歌をうたひ喇叭手喇叭を吹ならし燔祭の終るまで凡て斯ありしが二九 献ぐる事の終るにおよびて王および之と偕に在る者皆身をかが

めて禮拜をなせり三〇かくて又ヒゼキヤ王および牧伯等レビ人に命じダビデと先見者アサフの詞をもてエホバを讚美せしむ彼等喜樂をもて讚美し首をさげて禮拜す三時にヒゼキヤこたへて言けるは汝らずでにエホバに事へんために身を潔めたれば進みよりてエホバの室に犠牲および感謝祭を携へきたれと會衆すなはち犠牲および感謝祭を携へきたる又志ある者はみな燔祭を携ふ三會衆の携へきたりし燔祭の数は牡牛七十牡羊一百羔羊二百是みなエホバに燔祭として奉つる者なり三また奉納物は牛六百羊三千なりき四然るに祭司寡くしてその燔祭の物の皮を剥つくこと能はざりければその兄弟たるレビ人これを助けてその工を終ふ斯る間に他の祭司等も身を潔むレビ人は祭司よりも心正しくして身を潔めたり三五燔祭夥多しくあり酬恩祭の脂及びすべての燔祭の酒も然り斯エホバの室の奉事備はれり三六この事俄なりしかども神かく民の爲に備をなしたまひしに因てヒゼキヤおよび一切の民喜べり

第三〇章 茲にヒゼキヤ、イスラエルとユダに遍なく人を遣しまた書をエフライムとマナセに書おくりエルサレムなるエホバの室に來りてイスラエルの神エホバに逾越節を行はんことを勸む三王すでにその牧伯等およびエルサレムにある會衆と議り二月をもて逾越節を行はんと定めたり三其は祭司の身を潔めし者足らず民またエルサレムに集らざりしに因て彼時にこれを行ふことを得ざればなり四王も會衆もこの事を見て善となし五

即ちこの事を定めてベエルシバよりダンまでイスラエルに遍なく宣布しめしエルサレムに來りてイスラエルの神エホバに逾越節を行はんことを勸む是はその録されたるごとくにこれを行ふ事久しく無ししが故なり六飛脚すなはち王とその牧伯等が授けし書をもてイスラエルとユダを遍なく行めぐり王の命を傳へて云ふイスラエルの子孫よ汝らアブラハム、イサク、イスラエルの神エホバに起歸れ然はエホバ、アツスリヤの王等の手より逃れて遣るところの汝らに歸りたまはん七汝らの父および兄弟の如くならざれば彼らその先祖の神エホバにむかひて罪を犯したればこれを滅亡に就しめたまへり汝らが見ることし八然ば汝らの父のごとく汝ら頂を強くせずしてエホバに歸服しその永久に聖別たまひし聖所に入り汝らの神エホバに事へよ然ればその烈しき怒りなんぢらを離れん九汝ら若エホバに歸らば汝らの兄弟および子女その己を虜へゆきし者の前に衿憫を得て遂にまた此國にかへらん汝らの神エホバは恩恵あり憐憫ある者にましませば汝らこれに起かへるにおいては面を汝らに背けたまはじと一〇かくのごとく飛脚エフライム、マナセの國にいりて邑より邑に行めぐりて遂にゼブルンまで至りしが人衆これを嘲り笑へり二但しアセル、マナセおよびゼブルンの中より身を卑くしてエルサレムに來りし者もあり三またユダに於ては神その力をいだして人々に心を一にせしめ王と牧伯等がエホバの言に依り傳へし命令を之に行はしむ三斯りしかば一月にいたりて

民酔いれぬパンの節をおこなはんとて多くエルサレムに來り集れりその會はなはだ大なりき四彼等すなはち起てエルサレムにある諸の壇を取のぞきまた一切の香壇を取のぞきてこれをキデロン川に投すて二五二月の十四日に逾越の物を宰れり是において祭司等およびレビ人は自ら恥ぢ身を潔めてエホバの室に燧祭を携へきたり二六神の人モーセの律法に循ひ例に依て各々その所に立ち而して祭司等レビ人の手より血を受けて灑けり二七時に會衆の中に未だ身を潔めざる者多かりければレビ人その潔からざる一切の人々に代りて逾越の物を宰りてエホバに潔め獻ぐ二八また衆多の民すたはちエフライム、マナセ、イツサカル、ゼブルンより來りし衆多の者未だ身を潔むる事をせずその書録されし所に違ひて逾越の物を食へり是をもてヒゼキヤこれがために祈りて云ふ二九 恵ぶかきエホバよ凡そその心を傾けて神を求めその先祖の神エホバを求むる者は假令聖所の潔齋に循はざるとも願くは是を赦したまへと三〇エホバ、ヒゼキヤに聽て民を醫したまへり三 エルサレムにきたれるイスラエルの子孫は大なる喜悅をいだきて七日の間酔いれぬパンの節をおこなへり又レビ人と祭司は日々にエホバを讚美し高聲の樂を奏してエホバを頌へたり三ヒゼキヤ、エホバの奉事に普通じをる一切のレビ人を深く勞らふ斯人衆酬恩祭を獻げその先祖の神エホバに感謝して七日のあひだ節の物を食へり三かくて又全會あひ議りて更に七日を守らんと決め喜悅をいだきてまた七日を守れり

二四時にユダの王ヒゼキヤは牡牛一千羊七千を會衆に餽り又牧伯等は牡牛一千羊一萬を會衆に餽り祭司もまた衆く身を潔めたり二五ユダの全會衆および祭司レビ人ならびにイスラエルより來れる全會衆およびイスラエルの地より來れる異邦人とユダに住む異邦人みな喜べり二六かくエルサレムに大なる喜悅ありきイスラエルの王ダビデの子ソロモンの時より以來かくのごとき事エルサレムに在りしなり二七この時祭司レビ人起て民を祝しけるにその言聽れその祈禱エホバの聖き住所なる天に達せり

第三章この事すべて終りしかば其處に在しイスラエル人みなユダの邑々に出ゆき柱像を碎きアシラ像を研たふしユダとベニヤミンの全地より崇 邱と祭壇を崩し絶ちエフライム、マナセにも及ぼして遂にまつたく之を毀ち而してイスラエルの子孫のおのその邑々に還りて己の産業にいたれり三ヒゼキヤ祭司およびレビ人の班列を定めその班列にしたがひて各々にその職を行はしむ即ち祭司とレビ人をして燔祭および酬恩祭を獻げしめエホバの營の門において奉事をなし感謝をなし讚美をなさしめ三また己の財産の中より王の分を出して燔祭のためにす即ち朝夕の燔祭および安息日朝日節會などの燔祭のために之を出してエホバの律法に記さるる如くす四彼またエルサレムに住む民に祭司とレビ人にその分を與へんことを命ず是かれらをしてエホバの律法に身を委ねしめんとてなり五 其命令の傳はるや否や

イスラエルの子孫穀物油蜜ならびに田野の諸の産物の初を多く献げまた一切の物の什一を夥多しく携へきたるハユダの邑々に住るイスラエルとユダの子孫もまた牛羊の什一ならびにその神エホバに納むべき聖物の什一を携へきたりてこれを積疊ぬ七三月に之を積疊ぬることを始め七月にいたりて之を終れりハヒゼキヤおよび牧伯等きたりて其積疊ねたる物を見エホバとその民イスラエルを祝せり九ヒゼキヤその積疊ねたる物の事を祭司とレビ人に問尋ねければ「○ザドクの家より出し祭司の長アザリヤ彼に應へて言けるは民エホバの室に禮物を携ふることを始めしより以來我儕飽までに食ひしがその餘れる所はなほだ多しエホバその民をめぐみたまひたればなりその餘れる所かくのごとく夥多しと」ヒゼキヤ、エホバの家の内に室を設くることを命じければ則ちこれを設けニ忠實にその禮物什一および奉納物を携へいれりレビ人コナニヤこれを主どりその兄弟シメイこれに副ふニエヒエル、アザシヤ、ナハテ、アサヘル、エレモテ、ヨザバデ、エリエル、イスマキヤ、マハテ、ベナヤ等ヒゼキヤ王および神の室の宰アザリヤの命に依りコナニヤ及びその兄弟シメイの手下につきてこれが監督者となるニ

四 東の門を守る者レビ人エムナの子コレ神に獻ぐる誠意よりの禮物を司どりてエホバの献納物および至聖物を頒つニ五 その手につく者はエデン、ミニヤミン、エシユア、シマヤ、アマリヤおよびシカニヤみな祭司の邑々に居てその職を盡しその兄弟に

班列に依て之を頒つ大小ともに均しニ六 此外にまた凡て名簿に載たる男子三歳以上にしてエホバの室に入りその班列にしたがひて日々の職分を盡し擔任の勤務を爲すところの者に之を頒つニ七 またその宗家にしたがひて名簿に載られその班列にしたがひて擔任の事を執行ふところの祭司および二十歳以上のレビ人ハならびに名簿に載たるその小き者その妻の男子その女子などに盡く之を頒つ會中すべて然り即ち彼等は潔白忠實にその職を盡せりニ九 また邑々の郊地に居るアロンの子孫たる祭司等のためには邑ごとに人を名指し選り祭司の中の一切の男およびレビ人の中の名簿に載せたる一切の者にその分を予へしむニ〇 ヒゼキヤ、ユダ全國に斯のごとく爲し善事正事忠實なる事をその神エホバの前に行へりニ凡てその神の室の職務につき律法につき誠命につきて行ひ始めてその神を求めし工は悉く心をつくして行ひてこれを成就たり

第三章 ヒゼキヤが此等の事を行ひ且つ忠實なりし後アツスリヤの王セナケリブ來りてユダに入り堅固なる邑々にむかひて陣を張り之を攻取んとすニヒゼキヤ、セナケリブの既に來りエルサレムに攻むかはんとするを見ニその牧伯等および勇士等と謀りて邑の外なる一切の泉水を塞がんとす彼等これを助く四衆多の民あつまりて一切の泉水および國の中を流れたる溪河を塞ぎていひけるはアツスリヤの王等來りて水を多く得ば豈で可らんやとヒゼキヤまた力を強くし破れたる石垣をことごと

く建なほして之を戌樓まで築き上げその外にまた石垣をめぐらしダビデの邑のミロを堅くし戈盾を多く造り六軍長を多く民の上に立て邑の門の廣場に民を集めてこれを努ひて言ふ七汝ら心を強くし且勇めアツスリヤの王のためにも彼とともなる群衆のためにも懼るる勿れ慄く勿れ我らとともなる者は彼とともになる者よりも多きぞかし八彼とともなる者は肉の腕なり然れども我らとともなる者は我らの神エホバにして我らを助け我らに代りて戦かひたまふべしと民はユダの王ヒゼキヤの言に安んず九此後アツスリヤの王セナケリブその全軍をもてラキシを攻圍み居りて臣僕をエルサレムに遣はしてユダの王ヒゼキヤおよびエルサレムにをる一切のユダ人に告しめて云く一〇アツスリヤの王セナケリブかく言ふ汝ら何を恃みてエルサレムに閉籠りるや二ヒゼキヤ我らの神エホバ、アツスリヤの王の手より我らを救ひ出したまはんとて汝らを浚かし汝らをして饑渴て死しめんとするに非ずや三此ヒゼキヤはすなはちエホバの諸の崇邱と祭壇を取のぞきユダとエルサレムとに命じて汝らは唯一の壇の前にて崇拜を爲しその上に香を焚べしと言し者にあらずや四汝ら是我およびわが先祖等が諸の民に爲したる所を知らるか其等の國々の民の神少許にてもその國をわが手より救ひ取ることを得しや五わが先祖等の滅ばし盡せし國民の諸の神の中誰か己の民をわが手より救ひ出すことを得し者あらんや然れば汝らの神いかでか汝らをわが手より救ひいだすこ

とを得ん一五然れば斯ヒゼキヤに欺かるる勿れ浚かさるる勿れまた彼を信ずる勿れ何の民何の國の神もその民を我手または我父祖の手より救ひ出すことを得ざりしなれば況て汝らの神いかでか我手より汝らを救ひ出すことを得んと六セナケリブの臣僕等この外にも多くエホバ神およびその僕ヒゼキヤを誹れり七セナケリブまた書をかきおくりてイスラエルの神エホバを嘲りかつ誹り諸國の民の神々その民をわが手より救ひいださざりし如くヒゼキヤの神もその民をわが手より救ひ出さじと云ふ一八彼ら遂に大聲を擧げユダヤ語をもて石垣の上なるエルサレムの民に語り之を感しかつ擾せり是は邑を取んとてなり一九斯かれらはエルサレムの神を論ずること人の手の作なる地上の民の神々を論ずるがごとくせり二〇是によりてヒゼキヤ王およびアモツの子預言者イザヤとも祈禱て天に呼はりければ二一エホバ天の使一箇を遣はしてアツスリヤ王の陣營にある一切の大勇士および將官軍長等を絶したまへり斯りしかば王面を報らめて己の國に還りけるがその神の家にいりし時其身より出たる者等劍をもて之を其處に弑せり二三是のごとくエホバ、ヒゼキヤとエルサレムの民をアツスリヤの王セナケリブの手および諸人の手より救ひいだし四方において之を守護たまへり三三はにおいて衆多の人献納物をエルサレムに携へきたりてエホバに奉りまた財寶をユダの王ヒゼキヤに餽れり此後ヒゼキヤは萬國の民に尊び見らる二四當時ヒゼキヤ病て死んとせし

がエホバに祈りければエホバこれに告をなし之に休徴を賜へり  
 二五然るにヒゼキヤその蒙むりし恩に酬ゆることをせずして心  
 に高ぶりければ震怒これに臨まんとしたユダとエルサレムに  
 臨まんとせしが二六ヒゼキヤその心に高慢を悔て身を卑くしエ  
 ルサレムの民も同じく然なしたるに因てヒゼキヤの世にはエホ  
 バの震怒かれらに臨まざりき三七ヒゼキヤは富と貴を極め府庫  
 を造りて金銀寶石香物楯および各種の寶貴き器物を蔵め二八ま  
 た倉廩を造りて穀物酒油などの産物を蔵め園を造りて種々の  
 家畜を置き牢を造りて羊の群を置き二九また許多の邑を設けか  
 つ牛羊を夥多しく有り是は神貨財を甚だ多くこれに賜ひしが  
 故なり三〇このヒゼキヤまたギホンの水の上の源を塞ぎてこれ  
 を下より眞直にダビデの邑の西の方に引り斯ヒゼキヤはその  
 一切の工を善なし就たり三一但しバビロンの君等が使者を遣は  
 してこの國にありし奇蹟を問しめたる時には神かれを棄おきた  
 まへり是はその心に有とごころの事を盡く知んがために之を試みた  
 まへるなり三二ヒゼキヤのその餘の行爲およびその徳行はユダ  
 とイスラエルの列王紀の書の中なるアモツの子預言者イザヤの  
 黙示の中に記さる三三ヒゼキヤその先祖等と偕に寝りたればダ  
 ビデの子孫の墓の中なる高き處にこれを葬りユダの人々および  
 エルサレムの民みな厚くその死を送れり其子マナセこれに代り  
 て王となる

第三章一マナセは十二歳の時に即きエルサレムにて五十五

年の間世を治めたり二彼はエホバの目に惡と觀たまふことを爲  
 しイスラエルの子孫の前よりエホバの逐はらひたまひし國人の  
 行ふところの憎むべき事に倣へり三即ちその父ヒゼキヤの毀ち  
 たりし崇邱を改ため築き諸のバアルのために壇を設けアシラ  
 像を作りて天の衆群を拜みて之に事へ四またエホバが我名は永く  
 エルサレムに在べしと宣まひしエホバの室の内に數箇の壇を築  
 き五天の衆群のためにエホバの室の兩の庭に壇を築き六またベ  
 ンヒンノムの谷にてその子女に火の中を通らせかつ占トを行ひ  
 魔術をつかひ禁厭を爲し憑鬼者とト筮師を取用ひなどしてエホ  
 バの目に惡と視たまふ事を多く行ひてその震怒を惹起せり七彼  
 またその作りし偶像を神の室に安置せり神此室につきてダビデ  
 とその子ソロモンに言たまひし事あり云く我この室と我がイス  
 ラエルの諸の支派の中より選びたるエルサレムとに我名を永く  
 置ん八彼らもし我が凡て命ぜし事すなはちモーセが傳へし一切  
 の律法と法度と例典を謹みて行はば我が汝らの先祖のために定  
 めし地より我これが足を重てうつさじと九マナセかくユダとエ  
 ルサレムの民とを迷はして惡を行はしめたり其状イスラエルの  
 子孫の前にエホバの滅ぼしたまひし異邦人よりも甚だし一〇エ  
 ホバ、マナセおよびその民を諭したまひしかども聽くことをせざ  
 りき二是をもてエホバ、アッスリヤの王の軍勢の諸將をこれ  
 に攻來らせたまひて彼等つひにマナセを鉤にて虜へ之を器械に  
 繋ぎてバビロンに曳ゆけり三然るに彼患難に罹るにおよびて

その神エホバを和めその先祖の神の前に大に身を卑くして三  
 神に祈りければその祈禱を容れその懇願を聞きこれをエルサレ  
 ムに携へかへりて再び國に莅ましめたまへり是によりてマナ  
 セ、エホバは誠に神にいますと知り四この後かれダビデの邑の  
 外にてギホンの西の方なる谷の内に石垣を築き魚門の入口まで  
 に及ぼし又オベルに石垣を環らして甚だ高く之を築き上げユダ  
 の一切の堅固なる邑に軍長を置き五またエホバの室より異邦  
 の神々および偶像を取除きエホバの室の山とエルサレムとに自  
 ら築きし一切の壇を取のぞきて邑の外に投すて六エホバの壇  
 を修復ひて酬恩祭および感謝祭をその上に献げユダに命じてイ  
 スラエルの神エホバに事へしめたり七然れども民は猶崇邱  
 にて犠牲を献ぐることを爲り但しその神エホバに而已なりき  
 一八マナセのその餘の行爲その神になせし祈禱およびイスラエ  
 ルの神エホバの名をもて彼を諭せし先見者等の言はイスラエ  
 ルの列王の言行録に見ゆ九またその祈禱を爲たる事その聽れた  
 る事その諸の罪愆その身を卑くする前に崇邱を築きてアシラ  
 像および刻たる像を立たる處々などはホザイの言行録の中に  
 記さる二〇マナセその先祖とともに寝りたれば之をその家に葬  
 り其子アモンこれに代りて王となるニアモンは二十二歳の  
 時に即きエルサレムにて二年の間世を治めたり三彼は其父  
 マナセの爲しごとくエホバの目に惡と觀たまふ事を爲り即ちア  
 モンその父マナセが作りたる諸の刻たる像に犠牲を献げてこれ

に事へ三その父マナセが身を卑くせしごとくエホバの前に身  
 を卑くすることを爲ざりき斯このアモン愈その愆を増たりし  
 が二四その臣僕黨を結びて之に叛きこれをその家の内に縛せり二  
 五然るに國の民その黨を結びてアモン王に叛きし者等を盡く誅  
 し而して國の民その子ヨシアを王となしてその後を嗣しむ  
 第三四章ヨシアは八歳の時に即きエルサレムにて三十一年  
 の間世を治めたり四彼はエホバの善と觀たまふ事を爲しその父  
 ダビデの道にあゆみて右にも左にも曲らざりき五即ち尚若かり  
 しかどもその治世の八年にその父ダビデの神を求むる事を始め  
 その十二年には崇邱アシラ像刻たる像鑄たる像などを除きて  
 ユダとエルサレムを潔むることを始め六諸のバアルの壇を己  
 の前にて毀たしめ其上に立る日の像を斫たふしアシラ像および  
 雕像鑄像を打碎きて粉々にし是等に犠牲を献げし者等の墓の上  
 に其を撒ちらし七祭司の骨をその諸の壇の上に焚き斯してユダ  
 とエルサレムを潔めたり八またマナセ、エフライム、シメオンお  
 よびナフタリの荒たる邑々にも斯なし七諸壇を毀ちアシラ像お  
 よび諸の雕像を微塵に打碎きイスラエル全國の日の像を盡く斫  
 たふしてエルサレムに歸りぬハヨシアその治世の十八年にいた  
 りて己に國と殿とを潔めたりその神エホバの家を修繕はしめん  
 とてアザリヤの子シャパン邑の知事マアセヤおよびヨアハズの  
 子史官ヨアを遣せり九彼ら祭司の長ヒルキヤの許に至りてエホ  
 バの室に入し金を交せり是は門守のレビ人がマナセ、エフライ

ムおよび其餘の一切のイスラエル人ならびにユダとベニヤミンの人およびエルサレムの民の手より斂めたる者なり一〇やがてエホバの室を監督するところの工師等の手にこれを交しければ彼等エホバの室にて操作ところの工人にこれを交して室を繕ひ修めしむ二 即ち木匠および建築者に之を交しユダの王等が壞りたる家々のために琢石および骨木を買しめ梁木をとのはしむ三 その人々忠實に操作けりその監督者はメラリの子孫たるヤハテ、オバデヤおよびコハテの子孫たるゼカリヤ、メシユラムなどのレビ人なりき彼等すなはち之を主とる又樂器を弄ぶに精巧なるレビ人凡て之に伴なふ三 彼等亦荷を負ものを監督し種々の工事に操作ところの諸の工人をつかさどり別のレビ人書記となり役人となり門守となれり四 エホバの室にいりし金を取いだすに當りて祭司ヒルキヤ、モーセの傳へしエホバの律法の書を見いだせり五 ヒルキヤ是において書記官シヤパンにきて言けるは我エホバの室にて律法の書を見いだせりと而してヒルキヤその書をシヤパンに付しければ六 シヤパンその書を王の所に持ゆき王に復命まつして言ふ僕等その手に委ねられし所を盡く爲し七 エホバの室にありし金を打あけて之を監督者の手および工人の手に交せりと八 書記官シヤパン亦王に告て祭司ヒルキヤ我一の書を交せりと言ひシヤパンそれを王の前に讀けるに九 王その律法の言を聞て衣服を裂り二〇 而して王ヒルキヤとシヤパンの子アヒカムとミカの子アブドンと

書記官シヤパンと王の内臣アサヤとに命じて言ふ三 汝ら往てこの見當りし書の言につきて我の爲またイスラエルとユダに遺れる者等のためにエホバに問へ我らの先祖等はエホバの言を守らず凡て此書に記されたる所を行ふことを爲ざりしに因てエホバ我等に大なる怒を斟ぎ給ふべければなりと三 是においてヒルキヤおよび王の人々シヤルムの妻なる女預言者ホルダの許に往りシヤルムはハルハスの子なるテクワの子にして衣裳を守る者なり時にホルダはエルサレムの第二の邑に住をれり彼等すなはちホルダに斯と語りしかば三 ホルダこれに答へけるはイスラエルの神エホバかく言たまふ汝らに我に遣はせる人に告よ二 四 エホバかく言たまふユダの王の前に讀し書に記されたる諸の呪詛に循ひて我この處と此に住む者に災害を降さん五 其は彼ら我を棄て他の神に香を焚きおのが手にて作れる諸の物をもて我怒を惹起さんとしたればなりこの故にわが震怒この處に斟ぎて滅ざるべし三六 されど汝らを遣はしてエホバに問しむるユダの王には汝ら斯いふべしイスラエルの神エホバかく言たまふ汝が聞る言につきては七 汝此處と此にすむ者を責る神の言を聞し時に心やさしくして神の前に於て身を卑くし我が前に身を卑くし衣服を裂て我前に泣たれば我も汝に聽りとエホバ宣まふ二八 然ば我汝をして汝の先祖等に列ならしめん汝は安然に墓に歸する事を得べし汝は我が此處と此に住む者に降すところの諸の災害を目に見る事あらじと彼等即ち王に復命まつし

ぬ二九是において王人を遣はしてユダとエルサレムの長老をこ  
 とごとく集め三〇而して王エホバの室に上りゆけりユダの人々  
 エルサレムの民祭司レビ人及び一切の民大より小にいたるまで  
 ことごとく之にともなふ王すなはちエホバの室に見あたりし  
 契約の書の言を盡く彼らの耳に讀聞せ三二而して王己の所に立  
 ちてエホバの前に契約を立てエホバにしたがひて歩み心を盡し  
 精神を盡してその誠命と證詞と法度を守り此書にしろるされたる  
 契約の言を行はんと言ひ三三エルサレムおよびベニヤミンの有  
 ゆる人々をみな之に加はらしめたりエルサレムの民すなはちそ  
 の先祖の神にまします御神の契約にしたがひて行へり三四かく  
 てヨシア、イスラエルの子孫に屬する一切の地より憎むべき者  
 を盡く取のぞきイスラエルの有ゆる人をしてその神エホバに事  
 まつらしめたりヨシアの世にある日の間は彼らその先祖の神エ  
 ホバに従ひて離れざりき

第三章 茲にヨシア、エルサレムにおいてエホバに逾越節を  
 行はんとし正月の十四日に逾越の物を宰らしめ二祭司をして  
 その職を執行はせ之を勵してエホバの室の務をなさしめ三また  
 エホバの聖者となりてイスラエルの人衆を誨ふるレビ人に言  
 ふ汝らイスラエルの王ダビデの子ソロモンが建たる家に聖  
 契約の匱を放け再び肩に擔ふこと有ざるべし然ば今汝らの神  
 エホバおよびその民イスラエルに事ふべし四汝らまたイスラエ  
 ルの王ダビデの書およびその子ソロモンの書に本づきて父祖の

家に循がひその班列に依て自ら準備をなし五 汝らの兄弟なる  
 民の人々の宗家の区分に循ひて聖所に立ち之にレビ人の宗族の  
 分缺ること無らしむべし六 汝ら逾越の物を宰り身を潔め汝らの  
 兄弟のために準備をなしモーセが傳へしエホバの言のことく  
 行ふべしと七ヨシアすなはち羔羊および羔山羊を民の人々に餽  
 する其數三萬また牡牛三千を餽是みな王の所有の中より出して  
 其處に居る一切の人のために逾越の祭物となせるなり八その  
 牧伯等も民と祭司とレビ人に誠意より與ふる所ありまた神の室  
 の長等ヒルキヤ、ゼカリヤ、エヒエルも綿羊二千六百牛三百を  
 祭司に與へて逾越の祭物となす九またレビ人の長たる人々すな  
 はちコナニヤおよびその兄弟シマヤ、ネタンエル並にハシヤビ  
 ヤ、エイエル、ヨザバデなども綿羊五千牛五百をレビ人に餽り  
 て逾越の祭物となす一〇是のことく獻祭の事備はりぬれば王の  
 命にしたがひて祭司等は其の擔任場に立ちレビ人はその班列に  
 循がひ居り一やがて逾越の物を宰りければ祭司その血をこれ  
 が手より受て洒げりレビ人その皮を剥り二かくて燔祭の物を  
 移して民の人々の父祖の家の区分に付してエホバに獻げしむ  
 モーセの書に記されたるが如し其牛に行ふところも亦是のこと  
 し三而して例規のことくに逾越の物を火にて炙りその他の  
 聖物を鍋釜鼎などに烹て一切の民の人々に奔配れり四かくて  
 後から自身のためと祭司等のために備ふ其はアロンの子孫た  
 る祭司等は燔祭と脂を獻げて夜に入ればなり是に因てスレビ

人自分のためとアロンの子孫たる祭司等のために備ふるなり二五  
 アサフの子孫たる謳歌者等はダビデ、アサフ、ヘマンおよび王  
 の先見者エドトンの命にしたがひてその擔任場に居り門を守る  
 者等は門々に居てその職務を離るるに及ばざりき其はその  
 兄弟たるレビ人これがために備へたればなり二六 斯のごとく其  
 日エホバの献祭の事ごとく備はりければヨシヤ王の命にし  
 たがひて逾越節を行ひエホバの壇に燔祭を献けたり一七 即ち  
 其處に来れるイスラエルの子孫その時逾越節を行ひ七日の間  
 酔いれぬパンの節を行へり一八 預言者サムエルの日より以來イ  
 スラエルにて是のごとく逾越節を行ひし事なし又イスラエ  
 ルの諸王の中にはヨシヤが祭司レビ人ならびに来りあつまれる  
 ユダとイスラエルの諸人およびエルサレムの民とともに行ひし  
 如き逾越節を行ひし者一人もあらず一九 この逾越節はヨシヤ  
 の治世の十八年に行ひしなり二〇 是のごとくヨシヤ殿をととの  
 へし後エジプトの王ネコ、ユフラテの邊なるカルケミシを攻撃  
 んとて上り來りけるにヨシヤこれを禦がんとて出往り二一 是に  
 おいてネコ使者をかれに遣はして言ふユダの王よ是めに汝の與  
 る所ならんや今日は汝を攻んとには非ず我敵の家を攻んとする  
 なり神われに命じて急がしむ神われとともにあり汝神に逆ぶ  
 ことを罷よ恐らくは彼なんぢを滅ぼしたまはんと三 然るにヨ  
 シヤ面を轉して去ことを肯はず却てこれと戦はんとて 服装を變  
 へ神の口より出しネコの言を聽いれずしてメギドンの谷に到り

て戦ひけるが三 射手の者等ヨシヤ王に射中たれば王その臣僕  
 にむかひて我を扶け出せ我太瘡を負ふと言り二四 是においてそ  
 の臣僕等かれをその車より扶けおろし其引せたる次の車に乗て  
 エルサレムにつれゆきけるが遂に死たればその先祖の墓にこれ  
 を葬りぬユダとエルサレムみなヨシヤのために哀しめり二五 時  
 にエレミヤ、ヨシヤのために哀歌を作れり謳歌男謳歌女  
 今日にいたるまでその哀歌の中にヨシヤの事を述ベイスラエル  
 の中に之を例となせりその詞は哀歌の中に書さる二六 ヨシヤの  
 その餘の行爲そのエホバの律法に録されたる所にしたがひて爲  
 し徳行二七 およびその始終の行爲などはイスラエルとユダの  
 列王の書に記さる

第三六章 一 是において國の民ヨシヤの子エホアハズを取りエル  
 サレムにてその父にかはりて王とならしむ二 エホアハズは二十  
 三歳の時位に即きエルサレムにて三月が間世を治めけるが三  
 エジプトの王エルサレムにて彼を廢し且銀百タラント金一タ  
 ラントの罰金を國に課せり四 而してエジプトの王ネコ彼の  
 兄弟エリアキムをもてユダとエルサレムの王となして之が名  
 をエホヤキムと改めその兄弟エホアハズを執へてエジプトに  
 曳ゆけり五 エホヤキムは二十五歳の時位に即きエルサレムにて  
 十一年の間世を治めその神エホバの惡と視たまふことを爲り六  
 彼の所にバビロンの王ネブカデネザル攻のぼりバビロンに曳ゆ  
 かんとして之を柵械に繋げり七 ネブカデネザルまたエホバの家の

器具をバビロンに携へゆきてバビロンにあるその宮にこれを蔵めたりハエホヤキムのその餘の行爲その行ひし憎むべき事等およびその心に企みし事などはイスラエルとユダの列王の書に記さる其子エホヤキンこれに代りて王となる九エホヤキンは八歳の時に即きエルサレムにて三月と十日の間世を治めエホバの惡と視たまふ事を爲けるが二歳の歸るにおよびてネブカデネザル王人を遣はして彼とエホバの室の貴き器皿とをバビロンに携へいたらしめ之が兄弟ゼデキヤをもてユダとエルサレムの王となせり二ゼデキヤは二十一歳の時に即きエルサレムにて十一年の間世を治めたり三彼はその神エホバの惡と視たまふ事を爲しエホバの言を傳ふる預言者エレミヤの前に身を卑くせざりき三ネブカデネザル彼をして神を指て誓はしめたりしにまた之にも叛けり彼かくその項を強くしその心を剛愎にしてイスラエルの神エホバに立かへらざりき四祭司の長等および民もまた凡て異邦人の中にある諸の憎むべき事に倣ひて太甚しく大に罪を犯しエホバのエルサレムに聖め置たまへるその室を汚せり五其先祖の神エホバその民とその住所とを恤むが故に頻りにその使者を遣はして之を諭したまひしに一六彼ら神の使者等を嘲けり其御言を輕んじその預言者等を罵りたればエホバの怒その民にむかひて起り遂に救ふべからざるに至れり一七即ちエホバ、カルデア人の王を之に攻きたらせたまひければ彼その聖所の室にて劍をもて少者を殺し童男をも童女を

も老人をも白髮の者をも憐まざりき皆ひとしく彼の手に付したまへり一八神の室の諸の大小の器皿エホバの室の貨財王とその牧伯等の貨財など凡て之をバビロンに携へゆき二九神の室を焚きエルサレムの石垣を崩しその中の宮殿を盡く火にて焚きその中の貴き器を盡く壞なへり三〇また劍をのがれし者等はバビロンに虜れゆきて彼處にて彼とその子等の臣僕となりペルシヤの國の興るまで斯てありき三一是エレミヤの口によりて傳はりしエホバの言の應ぜんがためなりき斯この地遂にその安息を享たり即ち是はその荒をる間安息して終に七十年滿ぬ三二ペルシヤ王クロスの元年に當りエホバ曩にエレミヤの口によりて傳へたまひしその聖言を成んとてペルシヤ王クロスの心を感動したまひければ王すなはち宣命をつたへ詔書を出して徧く國中に告示して云く三三ペルシヤ王クロスかく言ふ天の神エホバ地上の諸國を我に賜へりその家をユダのエルサレムに建ることを我に命す凡そ汝らの中もしその民たる者あらばその神エホバの助を得て上りゆけ